

北名古屋市まち・ひと・しごと創生
総合戦略

【計画期間】平成27年度～平成31年度

平成28年2月

北名古屋市

目次

第1章 基本的な考え方

1 はじめに.....	1
2 策定の背景等.....	1
3 国及び愛知県の総合戦略.....	2

第2章 北名古屋市の特性

1 位置・圏域形成.....	4
2 地形・自然環境.....	4
3 産業.....	4
4 市民生活.....	5
5 地域資源.....	5

第3章 北名古屋市のめざす姿

1 めざすべき将来の方向.....	6
基本目標1 北名古屋市の特性を活かした「しごと」をつくる	
基本目標2 北名古屋市の魅力で「新しい人の流れ・にぎわい」を生み出す	
基本目標3 北名古屋市の若い世代の「結婚・出産・子育て」の希望をかなえる	
基本目標4 北名古屋市の安心な暮らしを守り住み続けられる「まち」をつくる	
2 総合戦略の構成.....	8

第4章 基本目標別取組

基本目標1の取組.....	10
基本目標2の取組.....	18
基本目標3の取組.....	26
基本目標4の取組.....	35

第5章 参考資料 北名古屋市の強み

視点1 備わっている環境.....	45
視点2 児童生徒に対する英語教育の取組.....	47
視点3 市の発展が見込める社会情勢.....	48

第1章 基本的な考え方

1 はじめに

国では、平成20年から始まった日本の人口減少が、今後、加速度的に進むと想定されることから、人口問題を主要課題と捉え、人口減少の克服と地域の活性化をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを喫緊の課題としています。

こうしたなか、国と地方が総力をあげて人口減少問題に取り組むための指針として「まち・ひと・しごと創生に関する基本方針」を平成26年9月12日に示しています。また、同年9月29日には「まち・ひと・しごと創生法」（以下「法」という。）を閣議決定しました。

法においては、人口の現状及び将来の見通しを踏まえた上で、総合戦略を策定し、まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向や施策を総合的かつ計画的に実施することとしました。

さらに、同年12月には、法に基づく「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」という。）と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、そのなかにおいて人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立するため、4つの基本目標に沿った施策の方向を掲げました。

2 策定の背景等

(1) 策定の背景

法においては、市町村が地域の実情に応じた「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、国及び都道府県の策定する総合戦略を勘案して定めるよう求められています。

本市では、国の総合戦略及び愛知県の総合戦略の趣旨を踏まえつつ、北名古屋市人口ビジョンで整理された人口の現状分析をもとに、北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「市の総合戦略」という。）を策定し、今後、めざすべき将来の目標と施策の方向を示すものです。

(2) 位置づけ

市の総合戦略は、法第10条に基づく、本市のまち・ひと・しごと創生に関する基本的な計画として位置づけます。

(3) 対象期間

市の総合戦略の対象期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

3 国及び愛知県の総合戦略

(1) 国の総合戦略

国の総合戦略においては、人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立するため、4つの基本目標に沿った施策の方向を掲げています。

1 国の総合戦略の基本的な考え方

(1) 人口減少と地域経済縮小の克服

- ・「東京一極集中」を是正する
- ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する
- ・地域の特性に即して地域課題を解決する

(2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

- ・地域経済の活性化、産業の高付加価値等による「しごとの創生」
- ・地方就労の促進や移住定住促進等による「ひとの創生」
- ・安心できる暮らしの確保や都市のコンパクト化、広域連携等による「まちの創生」

2 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

(1) 自立性

各施策、構造的な問題に対処し、地方公共団体等の自立につながるようにする。

(2) 将来性

地方が自主的かつ主体的に、前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

(3) 地域性

各地域の実態に合った施策を支援することとし、各地域は客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。

(4) 直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、施策を集中的に実施する。住民代表・産官学金労の連携を促すことにより、政策の効果をより高める工夫を行う。

(5) 結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

3 政策の基本目標

- <基本目標1> 地方における安定した雇用を創出する
- <基本目標2> 地方への新しいひとの流れをつくる
- <基本目標3> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- <基本目標4> 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(2) 愛知県の総合戦略

愛知県の総合戦略においては、3つの基本的な考え方と4つの重視すべき視点を踏まえ、しごとづくり、魅力づくり、人の流れづくり、結婚・出産・子育て環境づくり、暮らしの安心を支える環境づくり、活力ある地域づくりの6つの基本目標に沿った施策を掲げています。

1 基本的な考え方

東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域をめざす。

⇒ 愛知の発展を担うのは「人」であり、誰もが愛知を舞台に活躍できる「人が輝く愛知」を実現

- (1) 自然増・社会増両方を維持する愛知の強みを生かし、人口の維持・増加を図る。
 - ・日本屈指の産業集積を背景とした優れた雇用環境
 - ・大都市圏にありながらゆとりある住環境
 - ・三世代の同居・近居が多いなど、子育てにおいて親世帯からの支援が受けやすい環境 等
- (2) 2027年度のリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業を見据え、首都圏に対抗する強みを伸ばし、国内外から人を呼び込む求心力を強化する。
- (3) 「多核連携型」の都市構造や多様な地域環境など特性を生かし、県内のバランスある発展を図る。（三河山間地域等の人口減に歯止めをかける）

2 重視すべき視点

- <視点1> 産業を強くし、働く場をつくる
- <視点2> 地域の魅力を磨き上げ、発信する
- <視点3> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- <視点4> 活力ある地域をつくり、バランスある発展をめざす

3 基本目標と施策

<基本目標1> しごとづくり

日本の「産業首都」としての中枢性をさらに高め、質の高い「しごと」を創出する。

<基本目標2> 魅力づくり

“Heart” of JAPANをキーワードに、本県の魅力を国内外に発信し、多くの人を訪れ、滞在してもらえる地域をつくる。

<基本目標3> 人の流れづくり

若年者を中心とした東京圏への人口流出の流れに歯止めをかけ、国内外から愛知に人を呼び込む流れをつくる。

<基本目標4> 結婚・出産・子育て環境づくり

結婚の意思を持つ若者の希望をかなえ、夫婦が希望する時期に安心して出産、子育てができる環境をつくる。

<基本目標5> 暮らしの安心を支える環境づくり

年齢や男女、障害の有無や国籍に関わらず、誰もが社会の支え手として活躍できる社会をつくる。

<基本目標6> 活力ある地域づくり

各地域が活力を維持し、県内のバランスある発展を実現する。

第2章 北名古屋市の特性

1 位置・圏域形成

名古屋市の都心部から10km圏内に位置し、南部は名古屋市、東部は豊山町、西部は清須市、北部は小牧市、岩倉市、一宮市に接しています。市域は、東西約6km、南北約4kmで、面積は18.37km²と比較的小規模な都市です。市の中央を名鉄犬山線が南北に走り、名鉄や名古屋市営地下鉄で、名古屋市の都心部まで約10分という利便性が本市の大きな魅力の一つとなっています。また、名神高速道路や名古屋第二環状自動車道、名古屋高速道路が市域を囲み、名鉄西春駅が県営名古屋空港への交通アクセス拠点となっているなど、広域交通の利便性にも優れています。



2 地形・自然環境

海拔4~8m前後の概ね平坦な沖積地であり、徒歩や自転車による移動が容易です。本市は、名古屋市近郊にありながら農地が市域の約2割を占めており、都会と田舎という2つの景観が共存しています。また、市内を新川、五条川、合瀬川、水場川などの河川が流れており、うるおいある豊かな田園風景を形成しています。

3 産業

平成22年国勢調査による就業者数は41,494人であり、その約3割の13,797人が名古屋市に通勤しています。また、産業別にみると、第3次産業が26,144人と全体の約63%を占めており、第2次産業は12,339人で約30%、第1次産業は518人でわずか1%余りに留まっています。

4 市民生活

市内全域が坂の少ない平坦な地形のため、子どもや高齢者等の移動、子育て世代のベビーカー等での移動が容易であるとともに、徒歩や自転車で日常生活に必要な買い物が可能です。また、金融機関、病院・診療所などの地域医療も充実し、快適な居住環境が整っています。さらに、田園や親水空間など豊かな緑が多く残っており、大都市近郊の生活都市としての魅力を有しています。



5 地域資源

高齢者が生き生きと生活できるためのまちづくりとして「回想法」を全国で初めて地域ケアの中に取り入れました。その実践として、歴史民俗資料館（愛称：昭和日常博物館）と、明治時代に建築された日本家屋であり国の登録有形文化財でもある旧加藤家住宅があります。

街を歩くと彫刻やモニュメントにであうことができたり、大学公開講座を開設したりするなど、名古屋芸術大学と連携して市民が芸術や文化に触れあえる機会を提供しています。これらの地域資源により市のイメージが向上し、全国的にも認知度が高まっています。



第3章 北名古屋市のめざす姿

1 めざすべき将来の方向

本市における人口の現状分析を踏まえた「めざすべき将来の方向」は、以下のとおりです。

《北名古屋市人口ビジョン（抜粋）》

人口の減少への対応については、出生率の向上により人口構造の若返りを図ること及び転出抑制と転入増加により人口規模の安定を図り、人口減少に歯止めをかける必要があります。

本市においては、出生率の状況を見ると、合計特殊出生率が1.65であり、国や愛知県の平均値よりも高いものの、国民が希望する子どもの数を産んだ場合の合計特殊出生率の1.8や、人口維持のための水準である人口置換水準の2.07よりも低くなっているため、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる取組を進めることが必要となります。

あわせて、新たな工業系の市街地整備を活用し、就労場所となる事業所を誘致するとともに、本市の資源を活かした新たなビジネスを創出する取組により、若者や女性、高齢者など多様な雇用を創出することにより、転出の抑制、転入を促進していく必要があります。

また、本市が全体的に転入超過の傾向となっている要因として、名古屋駅周辺の拠点化が進むなか、名古屋駅からの交通利便性の良さから若い世代等の受け皿になっていることが考えられます。短期的な居住地を求めて転入する住民は安定した人口とならないものの、「北名古屋市だから住みたい」というような、北名古屋市らしさを活かした、まちの魅力を高めるまちづくりが必要となります。

さらに、活力ある北名古屋市を今後も維持するためには、北名古屋市ならではの魅力を発信し、本市に愛着のある市民及びこうした居住環境に魅力を感じる転入者を増やす取組を進めることにより、次世代の人を確保していく必要があります。

以上のことから、近い将来生じる人口減少に歯止めをかけ、人口構造の若返りを図るため、次のめざすべき将来の方向を定めます。

めざすべき将来の方向

- 結婚・出産・子育てしやすい環境づくり
- しごとづくり
- まちの魅力づくり
- 住み続けられるまちづくり

本市は、恵まれた立地環境にあることに加え、ゆとりやうるおいのある豊かな居住環境を魅力に発展しています。国の総合戦略の「基本目標」、愛知県の総合戦略の「重視すべき視点」を踏まえ、今後も北名古屋市の「住」機能に着目し、定住人口を確保していくことにより、活力あるまちづくりをめざし、「めざすべき将来の方向」に基づき、4つの基本目標を掲げます。

基本目標1 北名古屋市の特性を活かした「しごと」をつくる

北名古屋市が有する交通の利便性が良いという地理的な利点を活かし、新たな雇用創出につながる企業の誘致、地域密着型の商業やサービス業などの既存産業の育成、農業の活性化など、多様な「ひと」が市内で希望の「しごと」に就くことができ、また市外から新たな「ひと」を呼び込めるよう安定した雇用の創出を促進します。

基本目標2 北名古屋市の魅力で「新しい人の流れ・にぎわい」を生み出す

北名古屋市が有する歴史や文化、街中で気軽に触れることのできるアートなど、地域資源を魅力的に伝えることで、市民が地域への愛着を高められるようにするとともに、市外の人気がになり気になる「まち」、訪れたいくなる「まち」づくりを進めることにより、新しい「人の交流」が促進されるにぎわいに満ちた「まち」をつくります。

基本目標3 北名古屋市の若い世代の「結婚・出産・子育て」の希望をかなえる

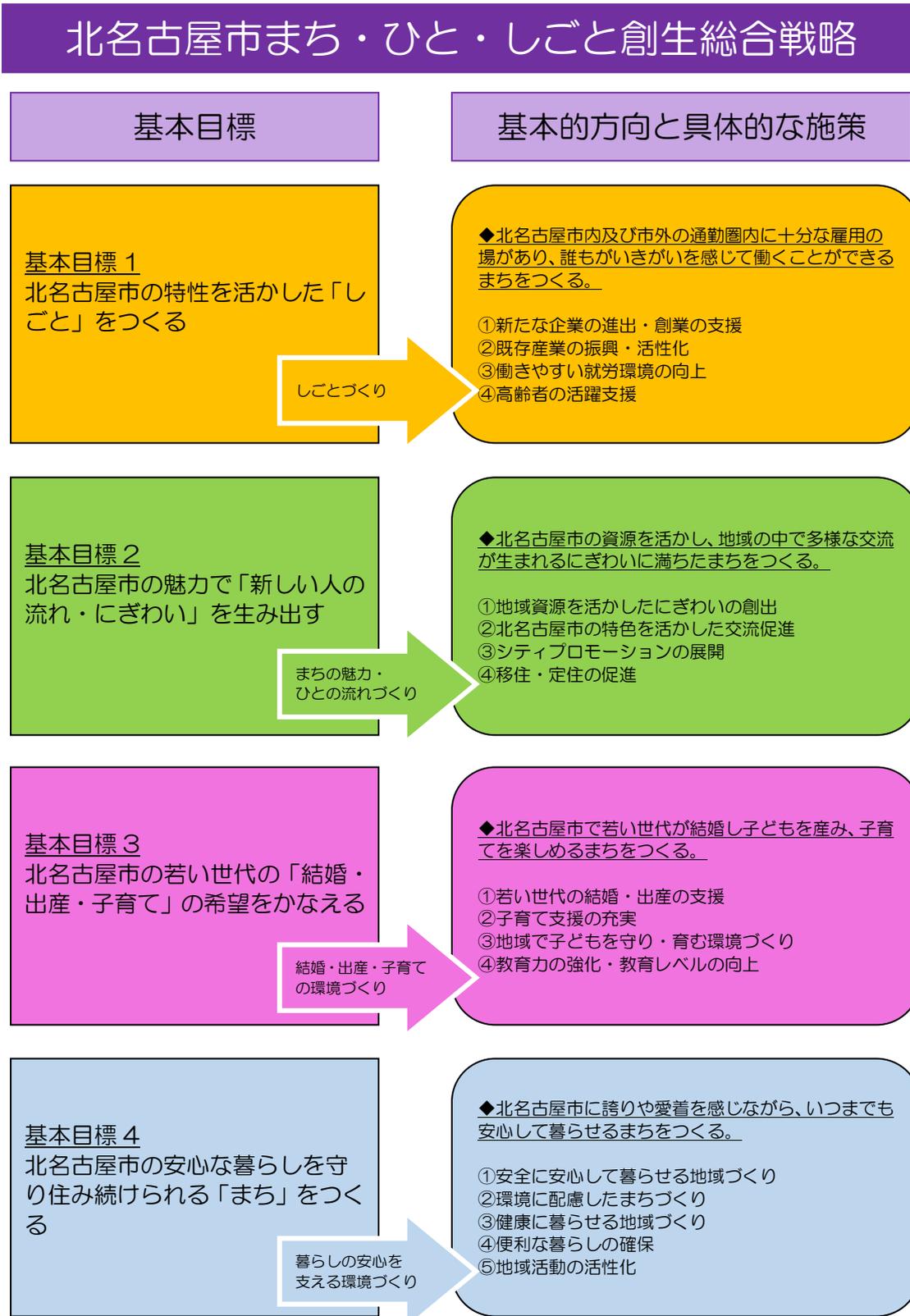
北名古屋市の特性である子育てしやすい環境をさらに充実するため、多様化する保育ニーズに対応したサービス体制の強化や子育て支援拠点の整備、子どもと親子の交流の促進、不安や悩みを解消するための相談体制の強化、特色ある教育の推進など、出産から成長過程にあわせた切れ目のない支援により、若い世代が安心して子どもを産み育てていくことができるまちづくりを進め、次世代の「ひと」づくりを支援していきます。

基本目標4 北名古屋市の安心な暮らしを守り住み続けられる「まち」をつくる

北名古屋市の特性である快適な住環境をさらに充実するため、水害や地震などの自然災害に強い都市基盤の整備や環境改善のための下水道の整備、犯罪や交通事故の対策などを進めるほか、地域の人をつなぐ仕組みづくり、地域間の連携強化など、いつまでも暮らしたいくなる健康で快適な生活を送ることのできる「まち」づくりを進めます。

2 総合戦略の構成

(1) 全体像



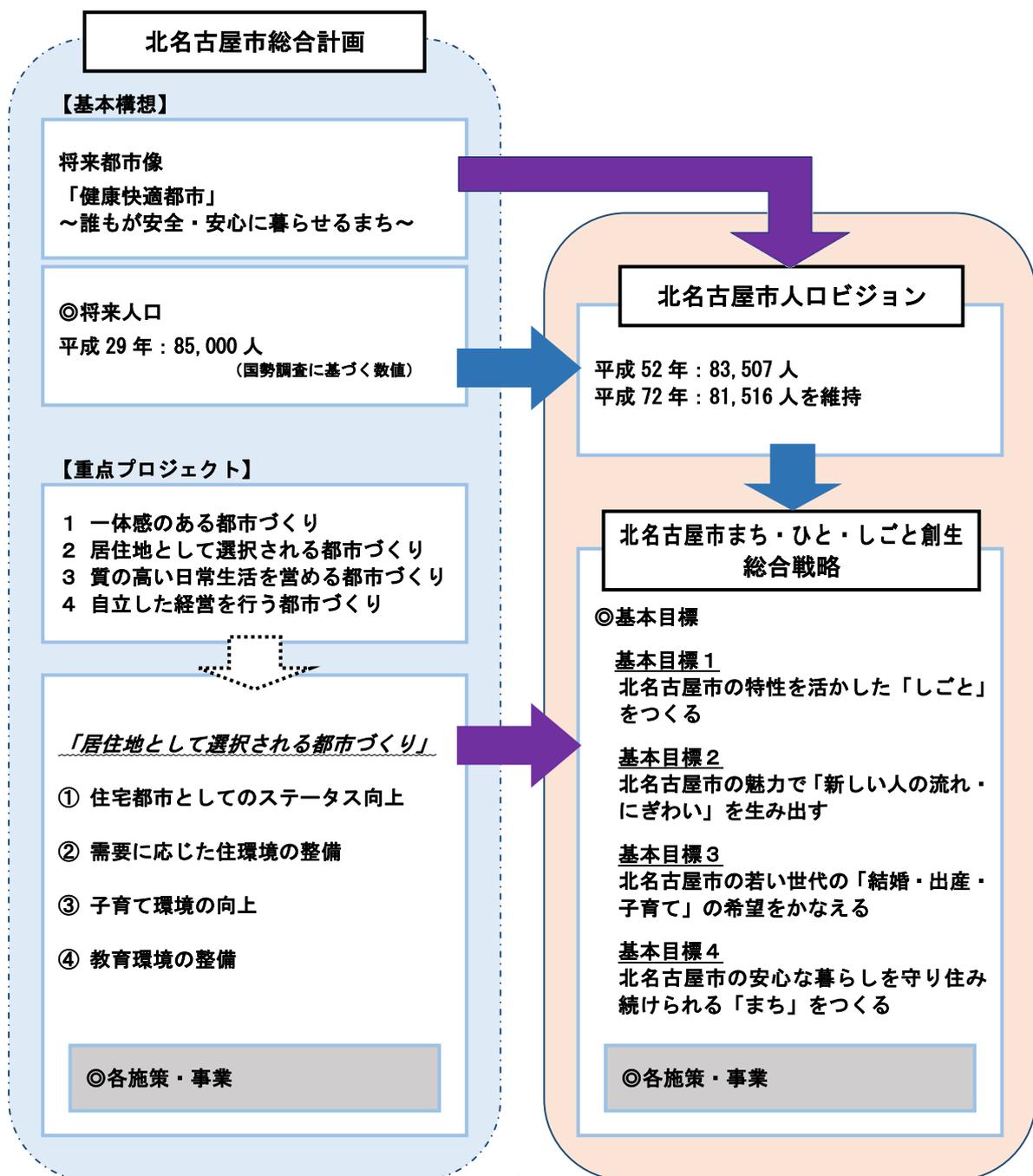
(2) 市の総合戦略の管理の推進

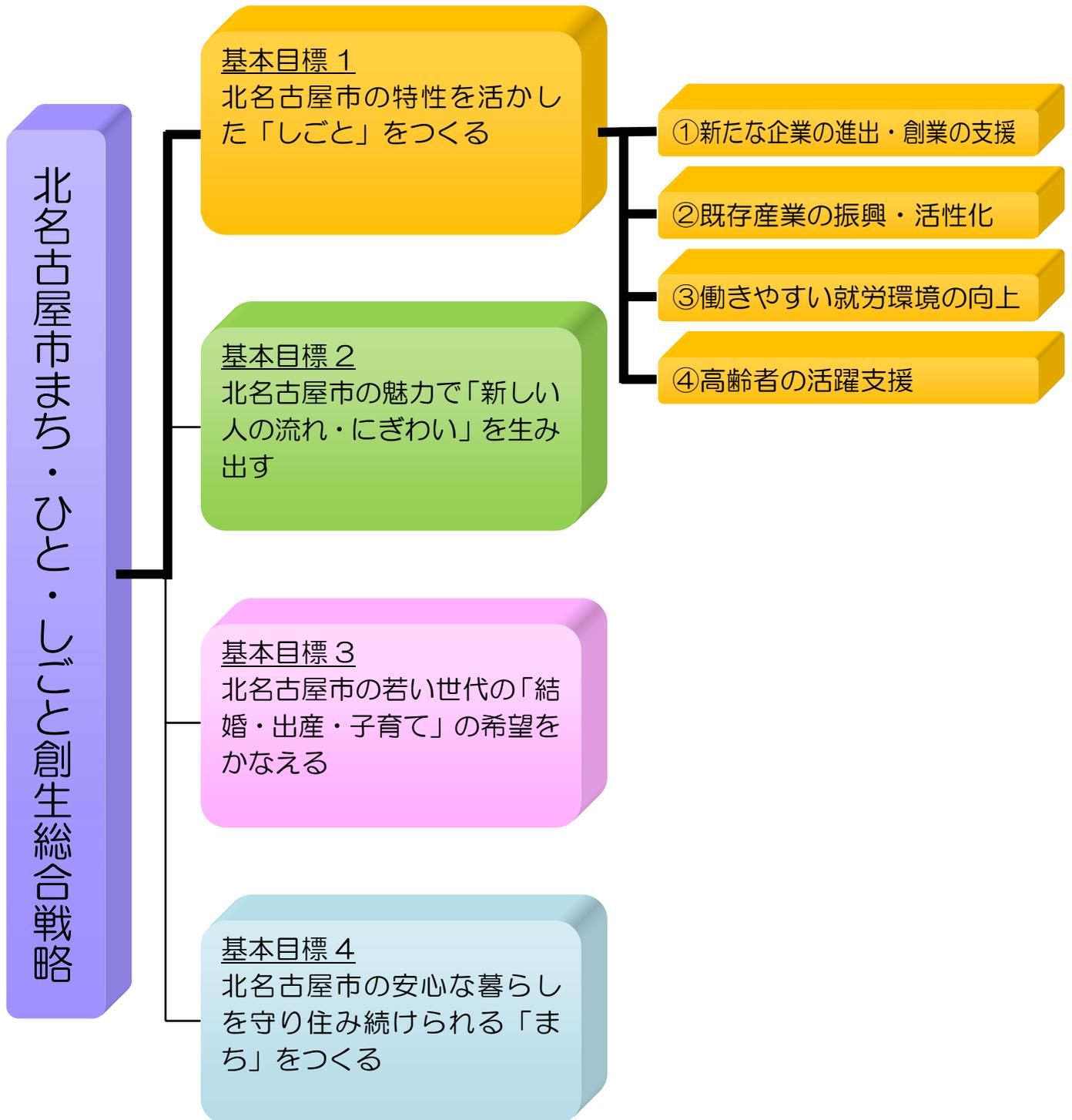
市の総合戦略に基づく取組を効果的に推進するためには、計画策定（Plan）→ 実行（Do）→ 検証（Check）→ 改善（Action）のサイクルを確立する必要があります。

本市の総合戦略では、基本目標ごとに数値目標を設定するとともに、主な施策について設定した重要業績評価指標（KPI）の数値をもとに、実施した施策・事業の効果を検証し、進捗管理を行います。

(3) 北名古屋市総合計画との関係

市の総合戦略は、北名古屋市総合計画で掲げた重点プロジェクトの一つである「居住地として選択される都市づくり」をさらに進めるための施策等で構成されています。





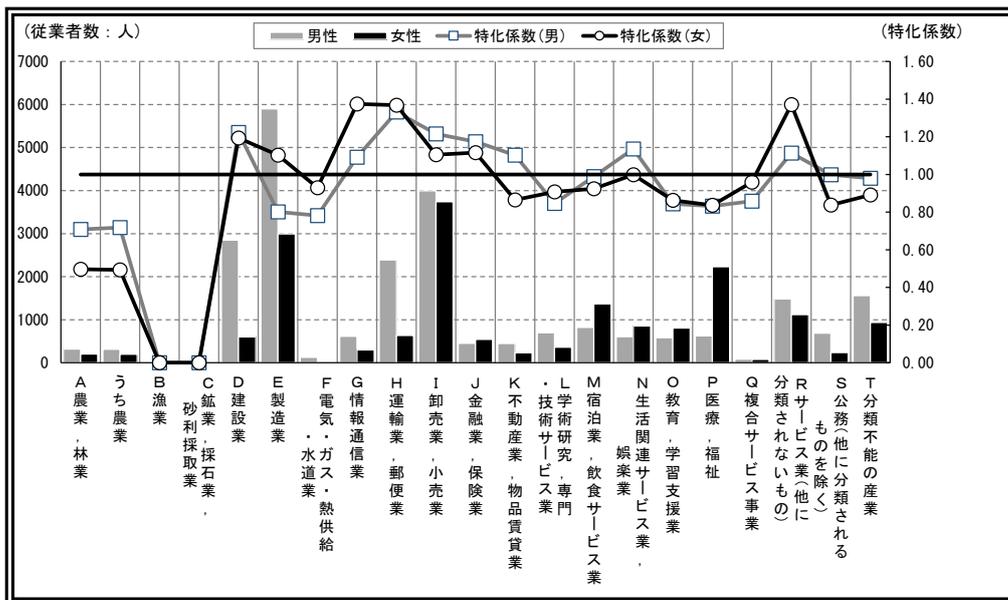
基本目標 1 北名古屋市の特性を活かした「しごと」をつくる

基本的方向

北名古屋市が有する交通の利便性が良いという地理的な利点を活かし、新たな雇用創出につながる企業の誘致、地域密着型の商業やサービス業などの既存産業の育成、農業の活性化など、多様な「ひと」が市内で希望の「しごと」に就くことができ、また市外から新たな「ひと」を呼び込めるよう安定した雇用の創出を促進します。

基本目標 1 の数値目標	現状値	目標値 (31年度)
就業者数	41,494人 (平成22年国勢調査)	43,266人
シルバー人材センター会員数	720人 (平成27年3月31日現在)	1,032人

■産業大分類別就業者数(2010(平成 22)年)



基本目標 1 に関するこれまでの主な取組

- ・ 沖村西部地区を「開発を優先的に推進する区域」に位置づけ企業等へPRを実施
- ・ 企業立地戦略ビジョンを策定し、企業立地促進条例を施行
- ・ 市内企業と連携して地元産農産物の産直販売を実施
- ・ 地域職業相談室で求人情報を提供し雇用の安定化を実施
- ・ ワークライフバランス啓発講座の実施
- ・ 高齢者の新規就職先となる企業を募集

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

施策1 新たな企業の進出・創業の支援

施策1の目的	
対象 企業 起業・創業希望者	めざすところ 市内に企業立地する 市内で起業・創業をする

施策1の内容	
◆新たな工業系市街地の整備	本市の南西部で名古屋市と隣接する「沖村西部地区」を新たな工業系市街地として整備します。
◆航空宇宙関連企業の誘致	国産初のジェット旅客機の開発・生産拠点の誘致を進めている県営名古屋空港の周辺地域という地理的な利点を活かし、関連企業を誘致します。
◆企業誘致に向けた支援の充実	地域の活性化を推進するため、今後成長が期待できる高度先端産業分野を始めとした工場や研究所の新增設に対し、支援の充実を図ります。
◆創業支援体制の構築	経済産業省中小企業庁が所管する、産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画の認定をめざします。
◆広域連携による創業支援	北名古屋市・清須市・豊山町の2市1町で連携し、創業支援セミナーの実施を推進します。

施策1の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
企業誘致件数（累積）	0件 （平成26年度）	5件

沖村西部地区開発事業

北名古屋市の活力の維持・向上を図るため、国道22号線・主要地方道春日井稲沢線に近接する沖村西部地区を企業立地のための新たな工業系市街地として「開発を優先的に推進する区域」と位置づけ、平成30年度工事着手を目標に事業化を進めています。

北名古屋市の南西部に位置し、名古屋市に隣接する市街化調整区域で、名古屋高速・名二環道路清洲東1Cから約2km、名神高速道路一宮1Cから約5kmと交通アクセスに優れています。



沖村西部地区開発事業予定地

施策2 既存産業の振興・活性化

施策2の目的

対象	めざすところ
商工業者 農業者	産業の活性化 農業後継者の確保

施策2の内容

◆既存産業の事業拡大・雇用の創出促進	愛知県と連携した奨励金制度によって、市内企業の流出防止、事業拡大及び雇用の維持・創出を図ります。
◆海外への販路拡大支援	市内企業の海外における販路拡大等に向けて、ジェトロ名古屋と協力して支援します。
◆既存商工業者の経営基盤強化	小規模企業等振興資金預託などにより、商工業者の経営基盤の強化を支援します。
◆農業後継者の育成と確保	青年農業者などの若い世代の農業の担い手の育成及び農地所有適格法人の定着を支援します。

施策2の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
愛知県と連携した市奨励金交付件数 (累積)	6件 (平成24~26年度)	10件 (平成27年度~)
小規模企業等振興資金融資申込件数	171件 (平成26年度)	190件
青年農業者 (累積)	0人 (平成26年度)	1人
農地所有適格法人 (累積) (平成28年4月以降)	—	1法人



ジェトロ名古屋・市商工会との三者による覚書の締結

地域活性化に向けた包括的業務協力に関する覚書 (ジェトロ名古屋・市商工会)

対日投資促進活動や企業の海外展開支援に係る相互連携を一層強化することで、本市へ進出を検討している外国企業や、海外展開を志向する市内企業への包括的なサポート体制の強化を行うことを目的としています。

施策3 働きやすい就労環境の向上

施策3の目的

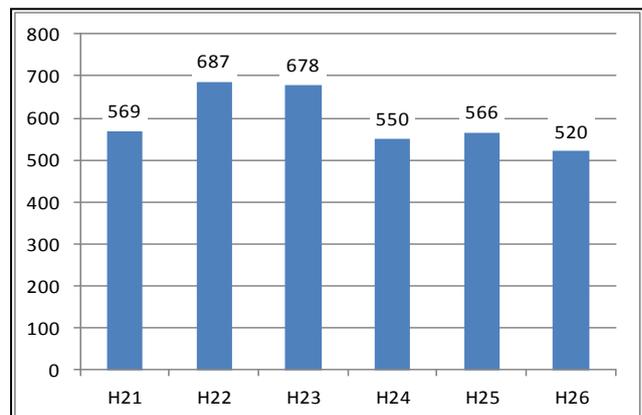
対象	めざすところ
就労希望者	働きやすくする

施策3の内容

◆雇用機会の確保	地域職業相談室と連携することにより、求人情報を提供し、就労機会の確保に努めます。
◆障害者の就労支援	就労を希望する障害者に対し、企業等の実習に係る交通費を助成することにより、障害者の一般就労の機会を広げ、生きがいを持って安心して働き続けられるよう支援します。
◆市内企業の託児施設の設置支援	託児施設を充実させることにより、就労を希望する世帯の負担を軽減します。
◆誰もが活躍できる環境整備	性別による固定的な役割分担意識やそれに基づく制度や慣行の解消につながる男女共同参画啓発事業を、市民活動団体等と協働で実施します。

施策3の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
地域職業相談室での就職年間件数	520件 (平成26年度)	530件
障害者への交通費助成による就労支援数 (平成27年度制度開始・累積)	0人 (平成27年10月現在)	5人
地域貢献事業等促進奨励金による託児施設設置数 (累積)	0件 (平成26年度)	2件
市内の女性の活躍促進宣言事業所数 (累積)	3事業所 (平成27年10月現在)	5事業所
協働による男女共同参画啓発事業の数	3事業 (平成26年度)	5事業

■ 地域職業相談室での就職件数 (単位: 件)



地域職業相談室

工場等を有する事業者による託児施設等の設置支援

北名古屋市では、市内の指定地域（市街化区域（工業地域、準工業地域）、市街化調整区域（六ツ師大島、熊之庄登り戸、熊之庄細長、九之坪五反地、中之郷天神の5地区））において工場等を新增設する事業者に対し、「北名古屋市企業立地促進条例」及び「北名古屋市高度先端産業立地促進条例」に基づき、奨励金を交付しています。

さらに、市内に工場等を有する事業者が、その周辺地域における市民生活との調和に貢献すると認める施設（託児施設など）を整備する事業等に対し、地域貢献事業等促進奨励金を交付しており、雇用する従業員の受け入れが可能な託児施設などの設置を支援しています。

北名古屋市男女共同参画推進条例

～前文～

日本国憲法には、男女は個人として尊重され、法の下に平等であるとうたわれています。

しかしながら、性別による固定的な役割分担意識やそれに基づく制度や慣習等の課題が依然として存在しており、男女共同参画社会の実現には、なお一層この課題の解決に取り組んでいく必要があります。

“健康快適都市”をめざす私たちのまち北名古屋市は、女性も男性もお互いの人格を尊重し、あらゆる分野で対等なパートナーシップを発揮しながら、自立した人としての意識と能力を高めます。

そして、私たちと将来を担う子どもたちのために、一人ひとりが自己実現できる“認めあい助けあうまち・いきいきと輝けるまち・きたなごや”をめざし、この条例を制定します。



とらいあんぐるフェスタ

とらいあんぐるフェスタ

女性も男性もお互いの人格を尊重し、あらゆる分野で対等なパートナーシップを発揮しながら、自立した人としての意識と能力を高め、一人ひとりが自己実現できる「認めあい助けあうまち・いきいきと輝けるまち・きたなごや」をめざしており、北名古屋市と北名古屋市男女共同参画推進事業実行委員会の主催により、とらいあんぐるフェスタを開催しています。

市内で活動する男女共同参画関連団体による発表・展示や、映画上映、クイズラリー等を行っています。

施策4 高齢者の活躍支援

施策4の目的

対象	めざすところ
高齢者	▶ 住み慣れた地域で元気に活躍

施策4の内容

◆高齢者の就業機会拡大	シルバー人材センターが行う高齢者の就業機会確保事業や日常生活支援等の地域ニーズに応える事業等に対して、円滑な事業運営が図れるよう支援します。
◆高齢者の社会参加による居場所づくり	回想法スクールや笑楽セミナー等の講座を受講した卒業生を対象に、事業終了後の自主活動グループの発足及び活動継続の支援を行うことで、高齢者の居場所づくりを進め、活動を通じた社会参加を推進します。

施策4の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (目標値)
老人クラブの総会員数	3,123 人 (平成 26 年度)	3,903 人
いきいき隊 (回想法スクール卒業生の会) 会員数	526 人 (平成 26 年度)	720 人
笑楽クラブ会員数	350 人 (平成 26 年度)	450 人

回想法の取組について

昔懐かしい生活用具などを用いて、かつて自分が経験したことを楽しみながら皆で語り合うことによって、脳を活性化させ、気持ち(心)を元気にする心理・社会的アプローチが回想法です。

北名古屋市では、回想法を日本で初めて地域の中に取り入れ「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりを目的に「思い出ふれあい事業」として実施しています。



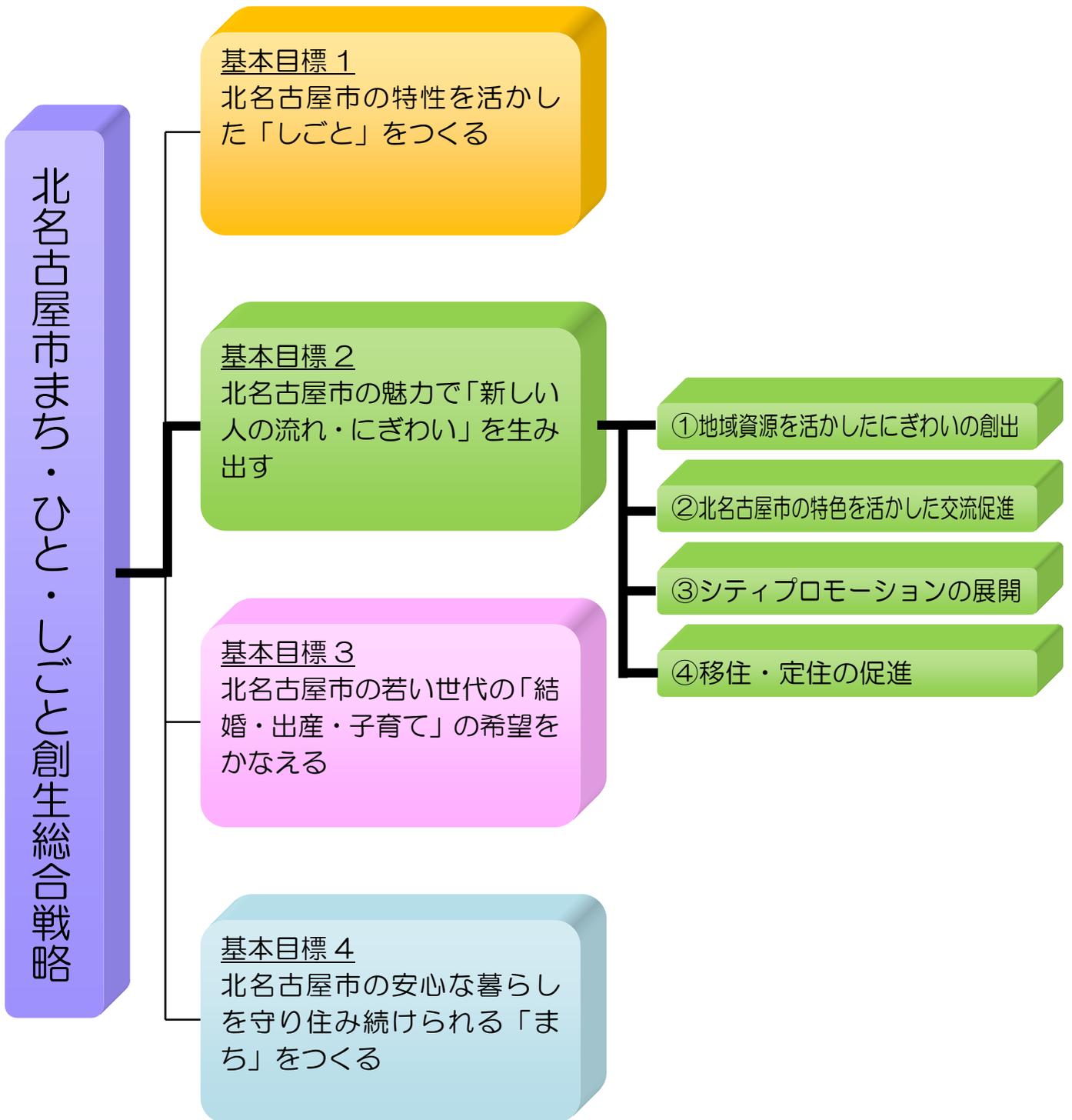
回想法センターでの回想法スクール

シルバー人材センターの概要



- 1 設立年月日
昭和 61 年 10 月 1 日
(平成 18 年 4 月 1 日に旧両町のシルバー人材センターが統合され、「北名古屋市シルバー人材センター」となる。)
- 2 会員数
720 名 (男 407 名、女 313 名)
- 3 粗入会率
3% (= 会員数 ÷ 60 歳以上人口 23,987 人)
- 4 会員の平均年齢
73.7 歳 (男 74.1 歳、女 73.1 歳)
- 5 就業延べ人員
83,939 名
- 6 就業率
98.8 % (1 年間に一度でも就業した会員の割合)
- 7 会員拡大と就業対策の主な取組
 - (1) 会員募集は、市広報、シルバーだよりと会員の口コミを主として、老人会等の団体にはチラシ等でPRしています。
 - (2) 未就業者には、優先して電話等で就業を働きかけると同時に、シルバーニュースで随時仕事情報を掲載し、就業希望者を募っています。
 - (3) 会員就業基準に基づき、継続就業期間満了者の就業交代を実施し、より多くの会員が就業できるよう努力しています。
 - (4) 平成 22 年度から「愛知県シルバー人材センター連合会北名古屋市事務所」として、シルバー派遣事業を運営しています。

〔平成 27 年 3 月 31 日現在〕



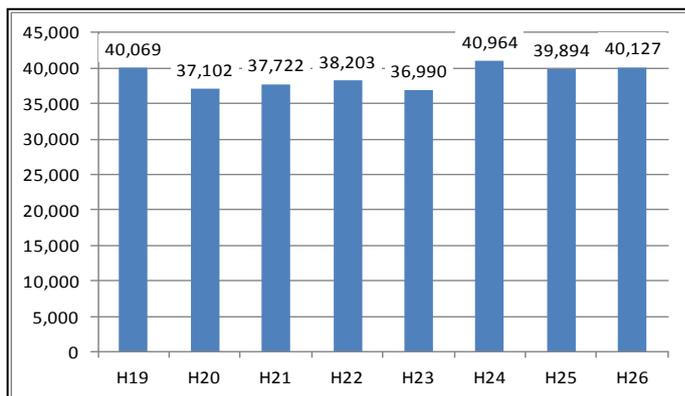
基本目標2 北名古屋市の魅力で
「新しい人の流れ・にぎわい」を生み出す

基本的方向

北名古屋市が有する歴史や文化、街中で気軽に触れることのできるアートなど、地域資源を魅力的に伝えることで、市民が地域への愛着を高められるようにするとともに、市外の人が気になり気に入る「まち」、訪れたくなる「まち」づくりを進めることにより、新しい「人の交流」が促進されるにぎわいに満ちた「まち」をつくります。

基本目標2の数値目標	現状値	目標値（31年度）
歴史民俗資料館（愛称：昭和日常博物館）の入館者数	40,127人 (平成26年度)	50,000人

■昭和日常博物館の入館者数の推移（単位：人）



基本目標2に関するこれまでの主な取組

- ・ 緑の基本計画を策定し、公園や緑地の整備を実施
- ・ 市民と行政が一体となって取り組めるイベントとして「平和夏まつり」を開催
- ・ レジャー農園（47か所・803区画）を開設
- ・ 西春駅西線及び駅前広場の整備
- ・ 名古屋芸術大学との連携により、市内各所に彫刻・モニュメントを設置
- ・ 無形民俗文化財の保存会と小学校の連携事業を実施

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

施策1 地域資源を活かしたにぎわいの創出

施策1の目的

対象	めざすところ
市内外の住民	交流が盛んになる

施策1の内容

◆特色ある景観の創出	学生制作のモニュメント等を展示できる場所を市内に設けることにより、芸術を活用した市の魅力を創出します。
◆公園・緑地の整備	市民にうるおいと安らぎを提供することにより、居住環境の向上を図るため、公園や緑地の整備を進めます。
◆農のある暮らしの提供	農業の専門家を講師として農業塾を開催するとともに、野菜づくりなどが楽しめるレジャー農園を提供します。
◆鉄道周辺まちづくりの推進	名鉄西春駅、徳重・名古屋芸大駅を本市の拠点として整備します。また、拠点をつなぐ環境軸として、鉄道沿線に緑地・緑道を整備します。
◆文化拠点の活性化	市民の芸術文化活動拠点として、また、名古屋芸術大学との連携により、気軽に芸術に触れ合うことができる中心施設として、文化勤労会館の有効活用を図ります。
◆生涯学習活動の支援	市民の身近な学習・交流の場として各種生涯学習講座の充実を図るとともに、様々な学習情報を積極的に提供し、生涯学習活動を支援します。
◆図書館での教育普及事業の充実	地域文化の発展と住み良い地域社会の形成に寄与するため、図書館でのイベント等を展開し、人と人との出会いを生み出すことにより、交流を広げるとともに、教育普及事業の充実を図ります。



名古屋芸術大学との協定の締結

名古屋芸術大学との連携に関する協定

平成20年10月7日、「北名古屋市と名古屋芸術大学との連携に関する協定」を締結しました。

この協定は、市内唯一の大学である名古屋芸術大学と、お互いが持つ知的・物的資源を有効に活用し、教育、文化、まちづくりなどの幅広い分野で協力し合い、地域社会の発展と人材の育成を推進するというものです。

施策1の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
モニュメント入れ替え (累積)	3件 (平成24~26年)	8件
レジャー農園区画数利用率	97% (平成26年度)	100%
文化勤労会館利用率	77.4% (平成26年度)	80%
大学との連携による文化勤労会館での事業数(累積)	1件 (平成26年度)	12件
生涯学習講座参加人数	767人 (平成26年度)	1,000人
図書館入館者数	456,342人 (平成26年度)	550,000人



「絶望と希望」
(H24. 3~H26. 2)



「循環」
(H26. 2~H27. 2)



「かべ」
(H27. 3~)

モニュメントの入替

名古屋芸術大学と「西春駅東線へのモニュメント設置に関する覚書」(平成23年12月)を締結し、名古屋芸術大学学生等の作品発表の場を提供するため、西春駅東線に展示スペースを設け、定期的に作品を入れ替えています。



レジャー農園

市民が野菜や花等の栽培をとおして、自然に触れ合うことにより、農業に対する理解を深めていただくため、市内47箇所に開設しています。



いきいき農業塾

市民の農業への意欲増進を図るため、年間をとおして講師から農業の指導を受け、安全で美味しい野菜づくりに励んでいます。

施策2 北名古屋市の特色を活かした交流促進

施策2の目的

対象	めざすところ
市内外の住民	▶ 相互に交流することができる

施策2の内容

◆企業との連携の推進	包括連携協定を締結している企業をはじめ、幅広い分野において市内企業と連携・協力することにより、地域の活性化を図ります。また、市民・市内の中小企業・行政の三者が連携した取り組みとして、マスメディアに複数回取り上げられているコマ大戦連携事業実行委員会の活動を支援することにより、市内外を含めた交流人口の増大を図ります。
◆昭和日常博物館を活用した魅力発信	独自性の高いコレクションをベースに、常設展示、特別展・企画展など魅せる発信を実施するとともに、地域回想法の聖地として交流・集客の創出を促進します。
◆暮らしの変遷及び記憶に関する調査研究の推進	日本有数の昭和時代の暮らしに関するコレクションを貴重な財産とし、記憶に関する研究やアートとのコラボレーションを通じて、大学を始めとする様々な機関、業種との連携・研究など、他の地域では成し得ない先進的な取組を推進します。
◆歴史・文化遺産の発信・活用	市内に所在する有形・無形の文化財、遺跡などの歴史・文化遺産の情報発信、活用の促進を図るため、ストーリー性やテーマ性のある「北名古屋ヘリテージ・トレイル ¹ 」のコースの策定を行い、市内各所の歴史・文化遺産を見て歩き、楽しみ・親しむきっかけづくりを創出します。

施策2の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
暮らしの変遷及び記憶に関するプロジェクト数 (累積)	3件 (平成26年度)	10件



全日本製造業コマ大戦
北名古屋場所

コマを活かした社会貢献活動

市民、市民活動団体、企業などが連携して、コマを世代間交流のツールとして社会貢献活動を展開しています。また、平成25年から3年連続、本市で開催している「全日本製造業コマ大戦」は、市内外の交流促進に大きな役割を果たしているとともに、製造業のアピールと自立した販路拡大・経済成長につなげることをめざしています。

¹ 「ヘリテージ・トレイル」とは、歴史・文化・自然・環境などを徒歩でめぐり、史跡散策のことで、北名古屋市が有する文化財、寺社、遺跡などをコースとして設定し、回遊性を高めることによる交流人口の拡大を図ります。

■昭和日常博物館での特別展・企画展（平成18年以降）

展示会名称	開催期間	入場者（人）
箱のなかみは…？ふたをあけて…！	平成18年3～5月	10,856
試験管サイズの昭和展	平成18年7～9月	12,387
憧れの歌声はあのラチオから聞こえた	平成18年11月～平成19年1月	9,213
おしゃれ・昭和かがみ展	平成19年3～5月	9,451
絵空旅 esora-trip 懐かしさのチカラで時間旅行	平成19年7～9月	11,482
新・コドモノコロすごろく双六	平成19年11月～平成20年1月	9,175
詳説・昭和大流行	平成20年3～5月	13,559
昭和 eco モノ語り 生活に+昭和の暮らしにエコを学ぼう	平成20年7～9月	10,131
お洋服-あ・れ・こ・レ 昭和30年代のお洋服と洋裁にまつわるあれこれ	平成20年11月～平成21年1月	7,364
春・昭和旅へ～懐かしい絵葉書を手がかりに時間旅行	平成21年3～5月	9,258
昭和のキッチン・台所再見～昭和時代の台所道具と食生活・家庭料理を探訪～	平成21年7～9月	10,779
昭和レトロ雑貨大全～暮らしの中に、なつかしさを～	平成21年11月～平成22年1月	9,661
古書に時代の空気感を読む～装丁・ブックデザインを愛でながら～	平成22年3～5月	8,794
二泊三日の臨海学校 ー昭和35年7月25日から27日の3日間ー	平成22年7～9月	9,565
回想の道具学 ー懐かしい道具のユニバーサルなカー	平成22年11月～12月	6,364
低平地に築かれし古墳 ー河川・地勢・積層する営みー	平成23年1月	4,508
実物による情景再現キットー木造校舎編ー	平成23年3～5月	8,646
市電沢上車庫を掘る 遺跡から発見された昭和ー旧懐と歴史・伝世品と出土品	平成23年7～9月	9,968
市民ミュゼ誕生 ー地域の物・事・人を掘り起こすー	平成23年11月～平成24年1月	8,698
合体家電と家電もどき	平成24年3～5月	9,394
電気冷蔵庫があつた夏を変えた。	平成24年7～8月	7,810
昭和生活文化総合研究所	平成24年10月～平成25年2月	18,267
花柄咲く昭和ーショウワ・ラボ 花柄採集ノートー	平成25年3～5月	8,417
ショウワ・ラボ的ー夏休み自由研究 この夏、研究者を体感する。	平成25年7～8月	8,088
scrapbooking × ショウワ☆ライフー昭和の暮らし切り抜き帖ー	平成25年10月～平成26年1月	11,634
昭和文具ラボ ー愛用の文房具を探せ！収蔵庫保管の文具全部見せますー	平成26年2～5月	14,946
熱闘・昭和ボードゲーム年代記	平成26年7～8月	9,772
ショウワ・キュージーン ー伝統と革新の食卓を囲んでー	平成26年10月～平成27年1月	11,178
春・ネル・おふとん ー昭和時代の「寝る」にまつわる博物誌ー	平成27年3～5月	6,211
大エジプト・柄・展ー時を越える驚異の昭和ノスタルジック・エジプト柄コレクションー	平成27年7月～9月	8,144



ショウワ・キュージーン



春・ネル・おふとん



大エジプト・柄・展

施策3 シティプロモーションの展開

施策3の目的

対象	めざすところ
市内外の住民	▶ 北名古屋市への愛着が深まる

施策3の内容

◆アートを活用したまちづくりの促進	市内唯一の大学である名古屋芸術大学の持つ知見を活用し、国登録有形文化財である旧加藤家住宅での「旧加藤邸アートプロジェクト」の開催や、市のオフィシャルなデザイン等を制作することにより、まちの活性化を図り、にぎわいを創出します。
◆地域の魅力を再発見	市内の日常生活における何気ない風景を切り取った画像をホームページに「北名古屋百景」として掲載し、本市の魅力を再発見するとともに市内外へのプロモーションを図ります。
◆魅力発信力の強化	北名古屋市の魅力をPR促進するため、新聞やテレビ、ミニコミ誌等のメディアを活用した情報発信を強化するとともに、SNS ¹ やクチコミなどの市民発信力を活用した取組を行っていきます。

施策3の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
名古屋芸術大学との新規連携事業 (累積)	2件 (平成27年10月時点)	10件
ホームページ閲覧件数	339,732件 (平成26年度)	390,000件
当地主力新聞朝刊記事掲載数	40件 (平成26年度)	60件



名古屋芸術大学の学生による市制施行10周年記念ロゴマーク

名古屋芸術大学の学生のデザインを活用した平成27年度事業	
ロゴマーク制作事業	市制施行10周年を市民全体で祝う象徴となるロゴマークを、名古屋芸術大学の協力により、学生による制作コンペで決定
議会だより表紙制作事業	年4回発行する議会だよりのうち、3回の表紙を名古屋芸術大学の学生のイラストを採用

¹ ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。人と人とのつながり（人間関係）を促進するための機能を有するサービス。

施策4 移住・定住の促進

施策4の目的

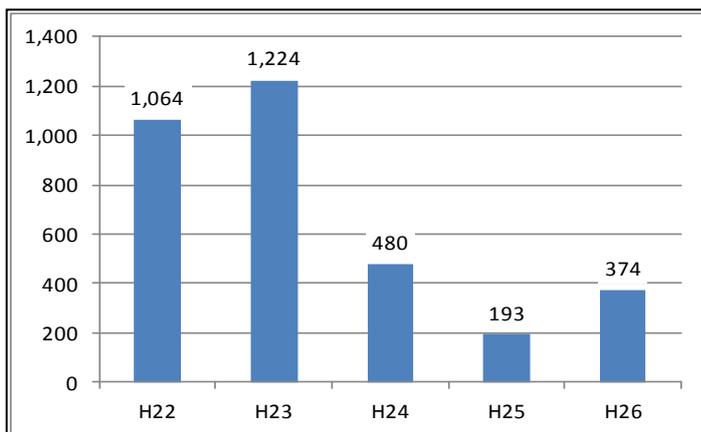
対象	めざすところ
市内外の住民	北名古屋市に住民続ける

施策4の内容

◆空き家の活用	市内の空き家の状況を調査把握し、空き家活用の第一歩として庁内に情報提供を行うとともに、貸し手と借り手のマッチングを行うことにより活用を促進します。
◆分かりやすい統計調査結果の公表	北名古屋市へ転入する際の参考データとなるよう、市民満足度や要望を推し量る統計調査の実施を進めていくとともに、市の各種データを集約し、分析結果を分かりやすく解説した統計書の公表を進めます。
◆きれいなまちづくりの推進	市民による自主的な活動により、道路の安全確保に加え、違反広告や貼り紙の撤去を行うなど、景観の美化に努めます。

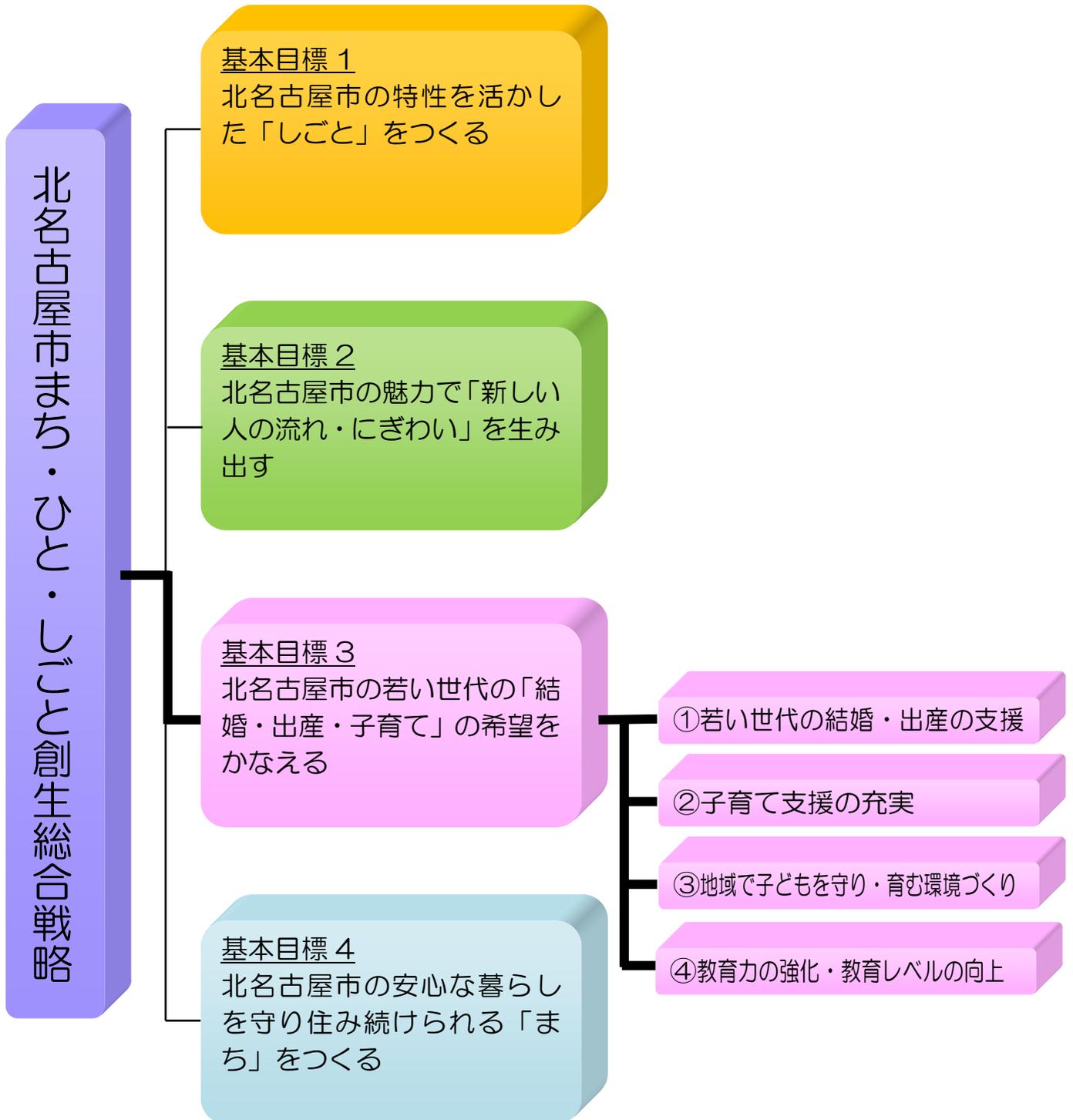
施策4の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
空き家庁内活用件数 (平成 27 年度開始)	0件 (平成 27 年 10 月現在)	5 件
ロードサポーター人数	22 人 (平成 27 年度)	22 人

■違反広告物・道路状況対応件数 (単位：件)



ロードサポーター

ロードサポーターは、市民による自主的な活動により、道路を常に良好な状態に保ち、安全な道路環境の向上に寄与することを目的としています。主な活動として、簡易広告物の除去をはじめ、道路の陥没、ひび割れなどを市へ報告しています。



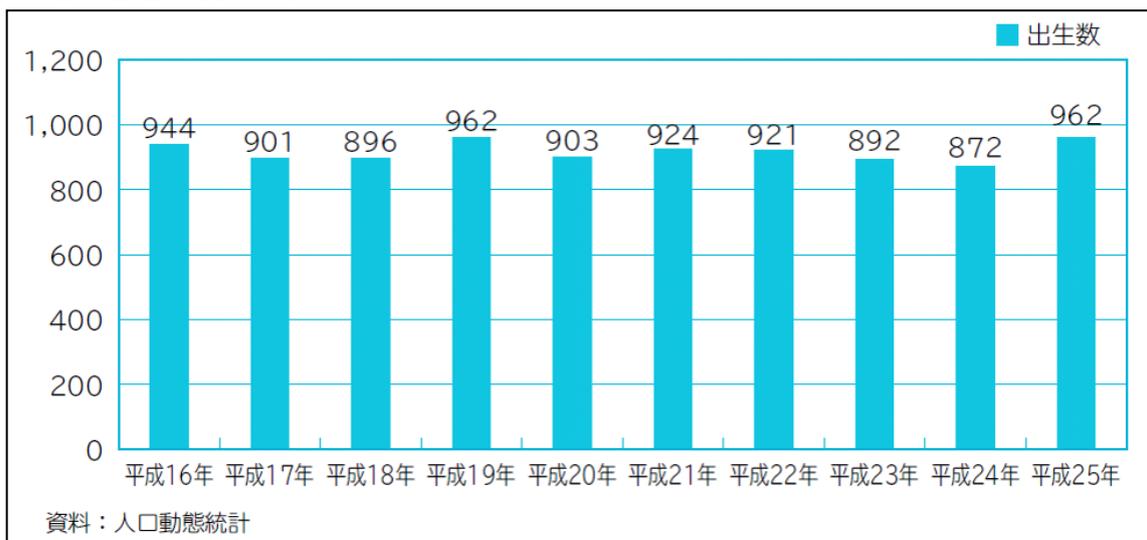
基本目標3 北名古屋市の若い世代の 「結婚・出産・子育て」の希望をかなえる

基本的方向

北名古屋市の特性である子育てしやすい環境をさらに充実するため、多様化する保育ニーズに対応したサービス体制の強化や子育て支援拠点の整備、子どもと親子の交流の促進、不安や悩みを解消するための相談体制の強化、特色ある教育の推進など、出産から成長過程にあわせた切れ目のない支援により、若い世代が安心して子どもを産み育てていくことができるまちづくりを進め、次世代の「ひと」づくりを支援していきます。

基本目標3の数値目標	現状値	目標値(31年度)
合計特殊出生率	1.65人 (平成20~24年度)	1.73人

■出生数の推移(単位:人)



基本目標3に関するこれまでの主な取組

- ・認可外保育施設への支援、一時保育や延長保育など多様な保育サービスの提供
- ・児童館を拠点に地域ぐるみの子育て支援を実施
- ・久地野保育園で異世代交流を実施
- ・親子遊びや親同士の交流の場として、保育園の園庭解放を実施
- ・学習活動上のサポートのため特別支援員を配置
- ・個別の状況に応じた教育支援のため、放課後や土曜日などにアフタースクール教室を実施

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

施策1 若い世代の結婚・出産の支援

施策1の目的

対象	めざすところ
若い世代	結婚・出産の希望をかなえる

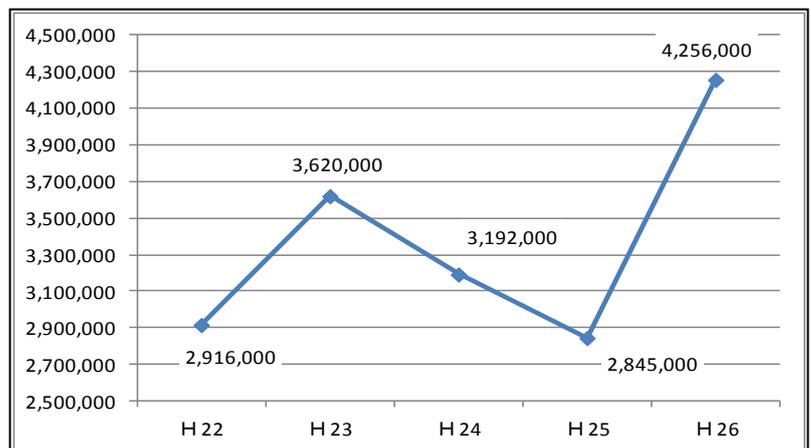
施策1の内容

◆妊娠・出産への支援環境整備	妊娠中から出産直後、各種健診時等において、育児や子どもの発達に関する親の不安を解消するため、相談窓口等による支援のほか、妊娠・出産に対する知識の普及啓発を図ります。また、高額な不妊治療に対して助成することにより出産への経済的負担の軽減を図ります。
◆乳幼児とのふれあい体験	学校・地域において、小中学生が乳幼児とふれあうことにより、自分の命やこれからの命について考えたり、将来、子育てに関わったときの予備体験をします。
◆出産に対する正しい知識の啓発	性についての正しい知識の啓発を推進するため、全中学校で思春期教室の開催を推進します。また、保護者に対して、健康教育における性教育の重点指導、思春期セミナーの実施などにより、家庭において、命の大切さ、性感染症予防などについて、年齢に応じた性知識の啓発を図ります。

施策1の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
中学校の思春期教室の参加者数	645人 (平成26年度)	765人
中学校の思春期教室の学校数	5校 (平成26年度)	6校



■一般不妊治療費助成の推移(単位:円)



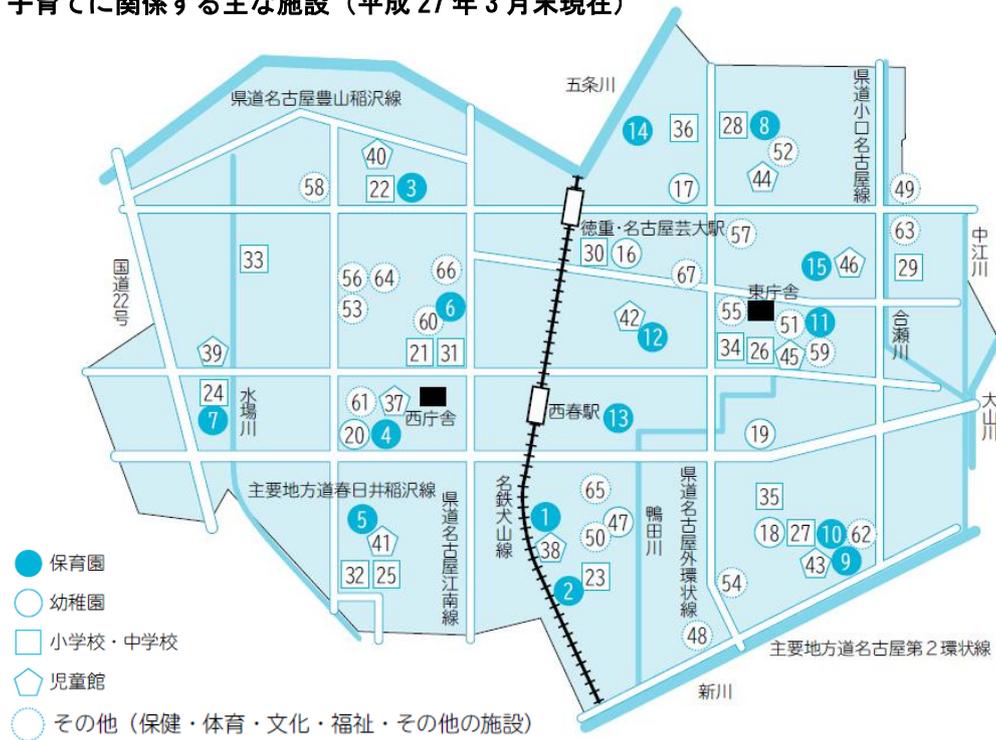
施策2 子育て支援の充実

施策2の目的	
対象	めざすところ
子育て世代	▶ 安全・安心な子育てができる

施策2の内容	
◆就労世帯を支える受け入れ体制の強化	子ども・子育て支援制度で創設された小規模保育事業を拡充することによって、0～2歳児の保育ニーズに応えるとともに、私立幼稚園に「一時預かり事業（幼稚園型）」の委託を実施し、受け入れ体制を強化します。
◆待機児童ゼロに向けた受け入れ体制の強化	待機児童ゼロを目標に、老朽化した保育園の建て替えや、民営化などを計画的に推進し、受け入れ体制の強化を図ります。
◆利用者に応じた子育て支援体制の強化	親子が気軽に集う場として子育て支援センターを開放し、遊びの実践・子育て情報の提供、相談事業を推進します。また、市役所に子育てコンシェルジュを設置し、子どもや保護者が、保育園や幼稚園等での教育・保育、一時預かり、児童クラブ等の事業の中から適切なものを選択し、円滑に利用できるようサポート体制を強化します。
◆親と子の健康づくり	子どもの健康的な生活習慣の育成を支援するため、「食を通して育む健康」を推進し、「まずは朝食に野菜を1品追加しよう」をスローガンとして、野菜の摂取量の増加を図ります。また、思春期の心の問題への対処とともに、未成年者の飲酒や喫煙、薬物等の体への悪影響を啓発するため、全中学校で講習会を実施します。
◆特別な支援を要する児童のサポート	障害のある児童生徒やADHD（注意欠陥・多動性障害）・高機能自閉症等の状態を示す児童生徒に対して、「特別支援員」を配置し、学校生活上の介助や学習支援、安全確保等学習活動上のサポートを行い、児童生徒の健やかな成長を図ります。
◆個に応じた指導の充実促進	学校教育に関するさまざまな悩みや疑問をもつ児童生徒や保護者に、専門的な視点から指導・助言を行い、不登校や問題行動の解決・防止に努めるとともに、いじめや不登校の悩みの解消を図ります。
◆就労世帯を支える放課後児童教育の推進	児童の安全安心な居場所づくりに努めるとともに、学習支援活動による学力の定着と推進を図ります。

施策2の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
小規模保育施設数 (平成27年度制度開始)	1施設 (平成27年10月現在)	6施設
待機児童数 (4月1日現在)	0人 (平成27年)	0人
子育て支援センター利用者数	58,713回 (平成26年度)	80,645回
特別支援員の配置人数	16人 (平成27年度)	18人
スクールカウンセラーの設置	16人 (平成27年度)	16人
放課後子ども教室実施小学校(平成28年度以降実施)	—	10校

■子ども・子育てに関する主な施設 (平成27年3月末現在)



保育園		小学校・中学校		41 沖村児童館		58 心身障害児通園所ひまわり西園	
1	九之坪北保育園	21	西春小学校	42	鹿田児童館	59	あさひ子どもふれあいセンター
2	九之坪南保育園	22	五条小学校	43	久地野児童館		心身障害児通園所ひまわり園
3	徳重保育園	23	鴨田小学校	44	熊之庄児童館		東子育て支援センター
4	西之保保育園	24	栗島小学校	45	井瀬木児童館	60	風と光こどもの国
5	沖村保育園	25	白木小学校	46	六ツ師児童館		北子育て支援センター
6	弥勒寺保育園	26	師勝小学校	その他(保健・体育・文化・福祉・その他の施設)		61	西子育て支援センター
7	中之郷保育園	27	師勝南小学校	47	保健センター	62	南子育て支援センター
8	熊之庄保育園	28	師勝北小学校	48	市民グラウンド	63	コッツ山公園
9	久地野保育園	29	師勝東小学校	49	ソフトボール球場	64	文化の森物語の広場
10	久地野保育園分園	30	師勝西小学校	50	健康ドーム	65	東部休日急病診療所
11	能田保育園	31	西春中学校	51	総合体育館	66	愛知県立西春高等学校
12	鹿田北保育園	32	白木中学校	52	市民プール	67	こぐま病児・病後児保育室
13	鹿田南保育園	33	天神中学校	53	ジャンボプール		
14	薬師寺保育園	34	師勝中学校	54	二子テニスコート		
15	六ツ師保育園	35	訓原中学校	55	東図書館		
幼稚園		36	熊野中学校	56	歴史民俗資料館		
16	師勝はなの樹幼稚園	児童館		57	西図書館		
17	名古屋芸術大学附属クエ幼稚園	37	児童センターきらり		文化勤労会館		
18	栄和幼稚園	38	九之坪児童館		西公民館		
19	師勝幼稚園	39	宇福寺児童館		東公民館		
20	西春幼稚園	40	鍛冶ヶ色児童館				

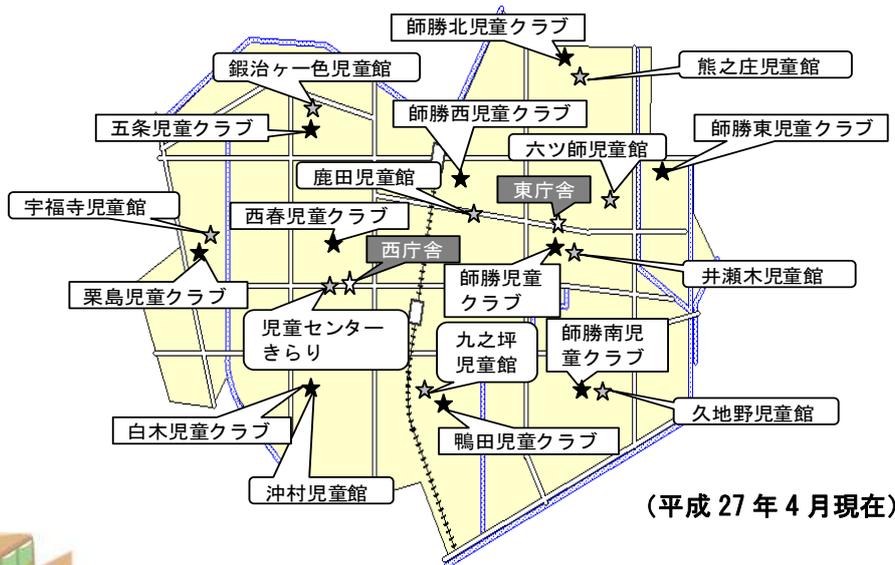
放課後における児童の総合的な対策について

全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、総合的な放課後対策に取り組んでいきます。



児童クラブ・児童館

全小学校区にある児童クラブは、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校等に通う子どもたちに、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図るものであり、女性の就労の増加や少子化が進行する中、仕事と子育ての両立支援、児童の健全育成に重要な役割を果たしています。また、同じく全小学校区にある児童館は、地域の全ての子どもが自由に来館できる「憩い」と「遊び」の場となっています。



放課後子ども教室

小学校の余裕教室等を活用して、地域の皆さんの参画を得て、放課後に、子どもたちに学習やスポーツ・文化活動等の機会を提供します。

部活動

部活動は、学校教育活動の一環として、スポーツや文化に興味と関心を持つ同好の児童生徒が、教員等の指導の下に、自発的・自主的に活動を行うものであり、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、楽しさや喜びを味わい学校生活に豊かさをもたらしています。



施策3 地域で子どもを守り・育む環境づくり

施策3の目的

対象	めざすところ
子ども（就学児）	悩みを相談できる場所がある

施策3の内容

◆コミュニティ・スクールの推進	地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりをめざすため、学校に学校運営協議会及び学校支援地域本部を設け、地域住民・保護者等が学校運営に参画し、支援することにより事業の推進を図ります。
◆地域子育て環境整備の促進	児童館が児童健全育成の地域活動の拠点となり、地域の各種団体のネットワークによって、子育てのしやすい地域づくりを図るため、全児童館で「地域ふれあい会」を開催し、地域の子育ての情報交換や児童館行事への参加・協力を促進します。また、災害時の事故を防止するための機能強化を図ります。

施策3の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
小学校の学校運営協議会の設置件数	10校 (平成27年度)	10校
中学校の学校運営協議会の設置件数	0校 (平成27年度)	6校
災害時の事故防止のため機能強化を施した児童館数	1館 (平成26年度)	10館

■コミュニティ・スクールのイメージ



児童センターきらり

児童センターきらり

平成26年4月にオープンした児童センターきらりは、市内児童館の中心的・指導的な役割と、地域全体で子育てを応援する拠点の施設としての役割をあわせもっています。また、災害対策を講じた施設となっています。

施策4 教育力の強化・教育レベルの向上

施策4の目的	
対象	めざすところ
子ども（就学児）	▶ 多様な教育を受けることができる
施策4の内容	
◆世界に羽ばたく児童の育成の推進	外国語に触れることにより、聞く、話す活動を中心に楽しみながら発達段階に即したコミュニケーション能力の育成を図るため、外国語指導助手を配置することにより、中学生の言語や文化の理解を深めるとともに、小学5・6年生のコミュニケーション能力の育成を図り、小学3・4年生に対しては、外国の生活や文化などに慣れ親しむ体験的な学習活動を推進します。また、土曜英語教室や英語の体験的な学習活動を実施することで、英語力の向上を図ります。
◆教育の質の充実	非常勤講師の配置及び教師への各種研修会、並びに学校休日等を利用したアフタースクールを実施することで、「習得」「活用」「探究」を徹底し、きめ細やかな指導を行い、児童生徒の学力の充実及び基本的な生活習慣の取得を推進します。
◆学校教育環境の充実	情報教育の学習及び学校運営に必要となる機器、環境の整備、維持管理をすることにより、情報化による教育の向上と校務の効率化を図ります。また、老朽化した学校施設を計画的に改修することで、経費削減や工期短縮を図るとともに、快適な教育環境を維持するため、全小中学校に空調設備の整備を進め、子どもたちの快適な学習環境の整備を推進します。
◆創造力豊かな人材の育成	少年少女発明クラブの活動を通して、理科や科学への興味を持ち、発明に夢を膨らませる児童・生徒を育成し、楽しみながらものづくりに取り組める機会の提供を推進します。
◆地域への愛着の増加促進	学習効果をより高めるために、学習指導要領の趣旨を活かした副読本を全児童・生徒へ配付します。
◆食育の推進	地域の自然、食文化、産業等に理解を深め、学校給食における食育を推進するため、積極的に地場産物を活用した安全安心な給食の提供を推進します。

施策4の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
土曜英語教室参加者数	313人 (平成26年度)	400人
外国語指導講師配置	9人 (平成27年度)	9人
非常勤講師配置	34人 (平成27年度)	34人
空調整備完了校（平成28年度以降実施）	—	16校
少年少女発明クラブ参加者数	281人 (平成27年度)	300人
地場産物を活用した給食の提供	30.4% (平成26年度)	45%



環境学習センター（西春中学校内）での
少年少女発明クラブの活動

少年少女発明クラブ

少年少女発明クラブは、市教育委員会と愛知県発明協会の共催のもと、理科や科学に関心を持つ子どもたちに楽しみながらものづくりに取り組める機会を提供し、未来の技術者を育成しようと、愛知県で19番目に発足し、現在では、全国で3番目に多いクラブ員数となっています。

活動は、市内事業所からの寄付や技術者の派遣によって支援され、子どもたちは電子工作や科学実験、ロボット操作など、自由な発想でさまざまな製作活動を行い、考える力と作品を完成させる喜びを学びます。

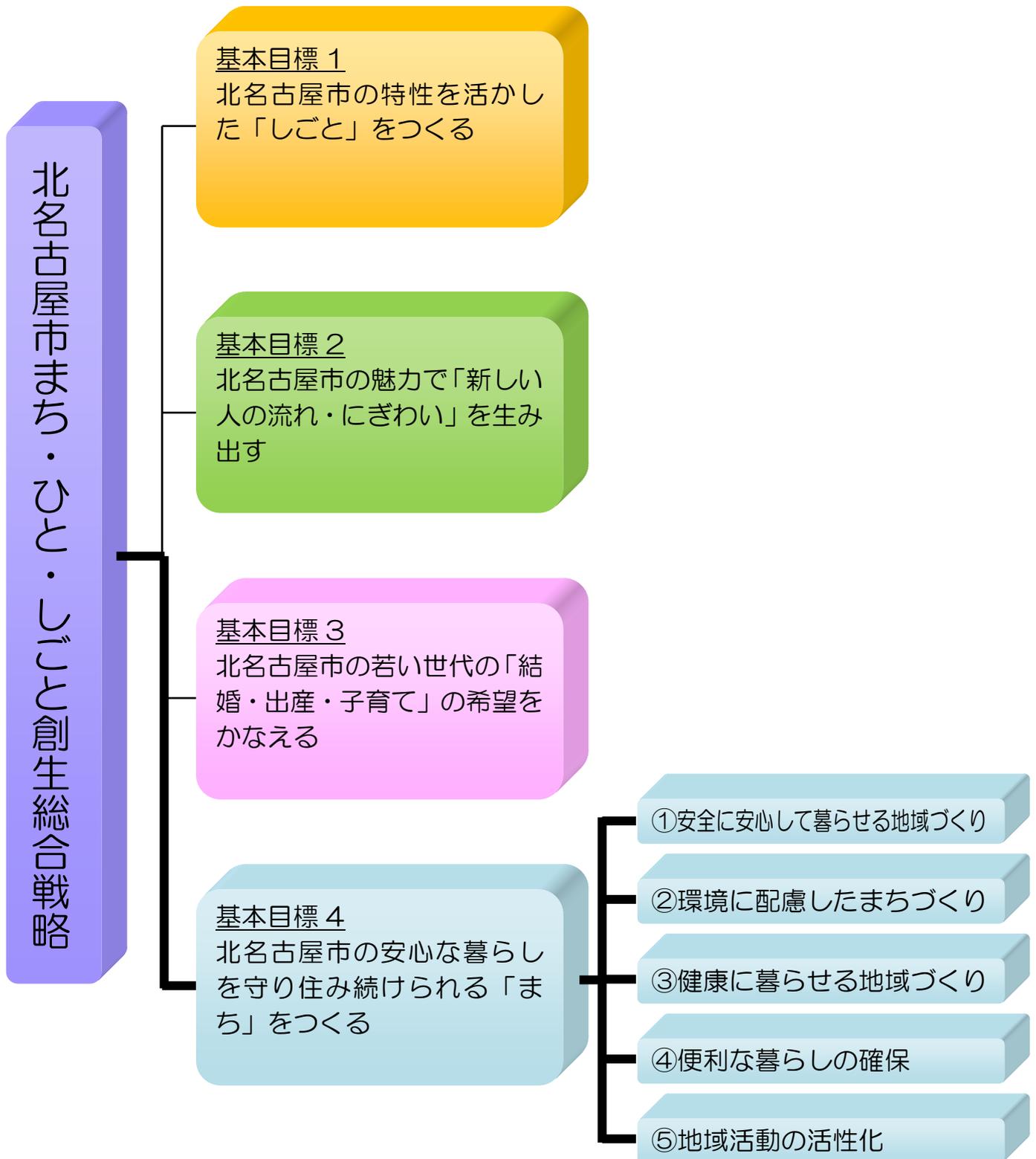


給食センター

給食センター

老朽化した東西給食センターを集約し、高い衛生基準に基づいた新しい給食センターを平成27年に新設しました。

学校給食衛生管理基準を遵守するとともに、食物アレルギーを有する園児、児童生徒に対応するため、27品目のアレルギー食品の除去及び代替食を実施するなど、安全・安心でおいしい給食を提供しています。



基本目標4 北名古屋市の安心な暮らしを守り住み続けられる「まち」をつくる

基本的方向

北名古屋市の特性である快適な住環境をさらに充実するため、水害や地震などの自然災害に強い都市基盤の整備や環境改善のための下水道の整備、犯罪や交通事故の対策などを進めるほか、地域の人をつなぐ仕組みづくり、地域間の連携強化など、いつまでも暮らしたくなる健康で快適な生活を送ることのできる「まち」づくりを進めます。

基本目標4の数値目標	現状値	目標値（31年度）
自治会加入率	85.5% (平成26年度)	87%
消防団員充足率	100% (平成27年度)	100%



基本目標4に関するこれまでの主な取組

- ・企業・大学と災害時の協力に関する協定、他自治体と災害時相互応援協定を締結
- ・防災リーダー養成講習会、自主防災会訓練、防災講話の実施
- ・公共性が高く、人通りが多い駅周辺に防犯カメラを設置
- ・老朽化した橋梁の点検、長寿命化修繕計画の策定、長寿命化対策工事の実施
- ・市と市民が協力・連携して地域の課題に取り組むことを目的とした市民協働モデル事業の実施

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

施策1 安全に安心して暮らせる地域づくり

施策1の目的	
対象	めざすところ
市民	▶ 安心して暮らすことができる

施策1の内容	
◆大規模災害に備えた防災体制の充実	現在アナログ方式の移動系防災行政無線をデジタル化整備することにより、災害時等の情報収集・伝達体制の充実を図ります。また、西庁舎分館の建替えに伴い、災害対策本部室を整備するとともに、地域組織や民間事業者、各種団体などとの連携を強化し、防災体制の充実を図ります。
◆犯罪のないまちづくりの推進	夜間における犯罪防止のための防犯灯・道路照明灯等のLED化を進めるとともに、自治会が設置する防犯カメラの設置費用を補助することにより、市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを推進します。
◆地域防災力の強化	自主防災組織による自主防災訓練や防災リーダー養成講習会等により、地域防災力の向上を図ります。 消防ポンプ自動車及び消防団詰所の整備を計画的に行うとともに、消防団員の安全装備等に係る機器等の整備の強化を図ります。さらに、消防団が活動しやすい環境を整備するため、消防団協力事業所表示制度を導入し、消防団への加入促進策を推進します。また、女性や学生などを重点とした加入促進を図ります。
◆住宅の耐震化促進	旧基準住宅の耐震化促進のため、耐震診断を進めるとともに、改修方法等の相談や耐震改修費の一部補助の活用により、倒壊の危険性のある住宅の耐震改修を進めます。また、高齢者などの避難弱者に対して、倒壊から命を守るための耐震シェルター設置費の一部補助を推進します。
◆安全・快適に遊べる都市公園・児童遊園	市民の憩いの場となるよう、公園の景観維持を図るとともに、子どもの遊び場として安全に利用できるよう、遊具等を適正に維持管理します。
◆安全・安心な都市基盤の整備	降雨による浸水対策を進めるため、雨水貯留・浸透施設の整備を推進します。また、安全で快適な交通機能の確保と健全な市街地形成を図るため、道路や水路を整備し、スムーズな移動と利便性の向上を図ります。

施策1の内容	
◆公共施設等の総合管理	本市が保有する建築物等の全体の状況を把握し、長期的な視点で公共施設等の更新・統廃合、安全性の確保、機能性の維持、長寿命化等を図ります。
◆安全・快適な道路・橋梁の維持管理	道路の機能及び安全性を確保するため、道路補修及び路肩の草刈り、街路樹の剪定や橋りょう長寿命化対策により、市道を適正に管理します。また、排水路の清掃や樋門点検・修繕の実施、排水機場及び調整池のポンプの管理を実施します。
◆防災拠点の整備	大規模な災害時に対応できるよう、防災活動拠点の強化を図るための整備を推進します。
◆ポンプ場を含む下水道（雨水）の整備	近年、増加傾向にある局地的大雨や台風による大規模な浸水被害等を防ぐために、電車川ポンプ場の耐震補強工事を実施するとともに、久地野ポンプ場とあわせた適切な維持管理を進めます。さらに、新川流域水害対策計画に基づき、下水道（雨水）による雨水貯留施設の整備を促進し、甚大な被害を防ぐための浸水対策を進めます。

施策1の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
自治会による防犯カメラ設置数（累積） （平成27年度制度開始）	—	52基
消防団員数	170人 （平成27年度）	190人

自治会による防犯カメラの設置

地域住民を主体として構成された自治会の皆さんが道路などの公共空間に、防犯カメラを設置し活用することは、地域の防犯活動や警察による巡回を補完するものとして有効な手段であり、地域の安全を守る大きな力となります。

「犯罪抑止効果」を高めるとともに「個人のプライバシーの保護」が守られるよう、自治会が公共空間に防犯カメラを設置し運用するためのガイドラインを定めるとともに、安全で安心なまちづくりを推進し、市民の安全を確保するため、自治会が設置する防犯カメラに係る経費に関し、防犯カメラ設置費補助金を交付することにより、街頭犯罪や侵入盗等の未然防止を図ります。

施策2 環境に配慮したまちづくり

施策2の目的

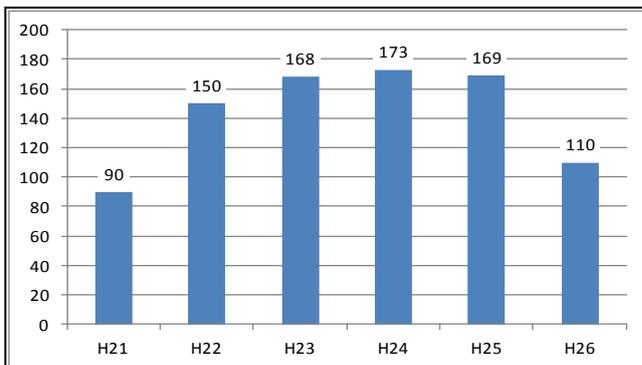
対象	めざすところ
市民	▶ 快適な住環境で暮らせる

施策2の内容

◆土地利用の適正化	現在の居住環境の維持・保全に考慮しつつ、企業立地や居住地として選択されるための新たな都市計画マスタープランを策定することにより、本市のめざす適正な土地利用の誘導を図ります。
◆太陽光発電などの新エネルギーの普及	地球温暖化の防止に向けて、住宅用太陽光発電システムの設置費を一部補助し、クリーンエネルギーの利用促進を図ります。
◆持続可能な循環型社会の推進	持続可能な循環型社会の構築を推進するために、市民や事業者へ、ごみの分別、減量及び資源化を推進します。また、平成27年度から新たに実施の「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づく小型家電の回収を推進します。
◆下水道（汚水）の整備促進	トイレの水洗化による生活環境の改善、河川などの公共用水域の水質保全・改善をし、快適な暮らしの環境づくりを進めるために、下水道（汚水）の整備を促進します。

施策2の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
太陽光発電システム設置補助件数	110件 (平成26年度)	160件
年間資源回収量	7,173t (平成26年度)	7,694t

■住宅用太陽光発電システム設置補助件数（単位：件）



使用済小型電子機器の回収

携帯電話やデジタルカメラ等の家電品にはレアメタルや貴金属等の有用金属が含まれているものの、使い終わった製品はリサイクルされず、ごみとして捨てられています。

そこで、平成27年5月1日から使用済小型電子機器の回収を開始しております。

施策3 健康に暮らせる地域づくり

施策3の目的

対象	めざすところ
市民	健康に生活できる

施策3の内容

◆健康寿命の延伸に向けた対策の推進	市民の健康管理に関する意識と知識を高めるため、生活習慣病に着目した効果的・効率的ながん検診・特定健診・特定保健指導を実施し、市民の健康管理を図ります。生活習慣病の改善を図るため、特定健診受診者のうち、糖尿病予備群及び治療中の方を対象に、生活指導や治療継続の支援を行います。また、予防接種により免疫をつくり、病気の発症予防を図ります。
◆健康づくり環境の整備	市民自らが健康づくりに取り組むことができるよう、健康ドームの元気測定室とトレーニング室に、保健師、健康運動指導士が常駐し、運動の実践をサポートします。また、ウォーキングをはじめ、日常的な運動習慣を持つ人の割合を増加させるため、気軽に運動できる環境づくりを進めます。
◆医療・介護体制の充実	地域住民の医療機会を確保するとともに、休日救急医療体制の充実及び救命・救急医療の充実と円滑な運営を図るため、広域市町村圏を基本とした構成自治体により、広域的情報システムの運営及び救急医療体制の確保を図ります。また、住み慣れた地域で最期まで過ごせるよう在宅医療と介護の連携を図り、在宅医療・福祉統合ネットワークにおけるICT（北名古屋レインボーネット・電子@連絡帳）や地域の医療と介護資源マップの導入など、支援体制の整備を行うことによって在宅医療を推進します。
◆認知症地域支援体制の構築促進	認知症サポーター養成講座や講演会等の啓発事業を開催するとともに、おたがいさまねっとメール（行方不明者情報）の登録者の増加を図ることにより、地域支援体制の構築を推進します。また、認知症の方とその家族、市民、介護専門スタッフ等が集う場を設け、交流や相談、地域の中で認知症に対する知識を啓発していくことで、認知症の方や家族が安心して生活できる環境整備を促進します。
◆多様な生活支援サービスの充実	既存の事業者による専門的な予防サービスから、住民主体による支援まで、多様なサービスができる体制づくりを推進します。

◆生涯スポーツ・レクリエーションの充実	市民のライフステージや興味・関心等に応じてスポーツに親しむことができる機会を提供します。また、各スポーツ・レクリエーション団体の活動を通して市民相互の連帯と協調を深め、「健康快適都市」の実現を推進します。
---------------------	--

施策3の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
特定健診受診率	34.4% (平成26年度)	60%
特定保健指導受診率	20.4% (平成26年度)	60%
トレーニング室利用者数	27,666人 (平成26年度)	28,000人
北名古屋レインボーネット(電子@連絡帳)利用数 (平成26年度モデル事業・平成27年度新規事業)	9件 (平成27年10月現在)	100件
おたがいさまねっとメール登録者数	475件 (平成27年10月現在)	620件
認知症カフェの運営数	2件 (平成27年10月現在)	10件
スポーツ教室参加人数	86人 (平成26年度)	100人
市民体育祭参加人数	2,971人 (平成26年度)	3,500人
体育協会会員数	3,247人 (平成26年度)	3,500人
スポーツクラブ会員数	1,112人 (平成26年度)	1,500人



北名古屋 稲葉篤紀ふるさと広場

総合運動広場

(呼称：北名古屋 稲葉篤紀ふるさと広場)

この施設は、新設の多目的グラウンドとテニスコートを一体化した総合的なスポーツ・レクリエーション施設です。

また、まちのシンボルのひとつとしてみなさんに永く親しまれ愛される施設となるよう、北名古屋市出身の稲葉篤紀氏にちなんで、呼称を「北名古屋 稲葉篤紀ふるさと広場」としました。みなさんの健康づくりや体力づくり、また地域のコミュニティ活動の場として活用されています。



健康ドーム

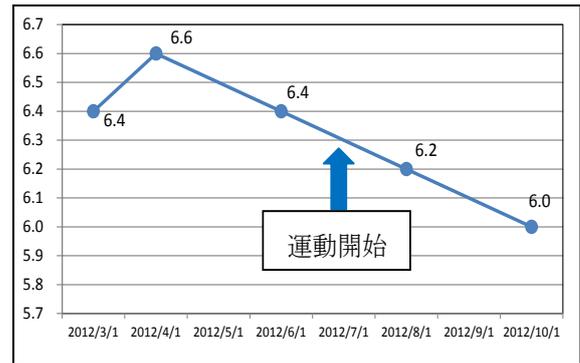
健康ドーム

健康ドームは、健康づくりの拠点として位置づけ、健康都市として特色ある健康づくり事業に努めています。

「市民が主体の健康ライフスタイルの確立」をめざして、市民協働を積極的に推進するとともに、健診(検診)体制の充実や生活習慣病予防事業として「糖尿病対策」や「メタボ対策」などの取組を強化しています。



健康ドームでのトレーニング



トレーニンググループに3か月通った方の
HbA1c (グリコヘモグロビン)
JDS 値 (日本糖尿病学会) の推移

生活習慣病予防と運動習慣を支援

健康ドーム元気測定室・トレーニングルームでは、あいち健康プラザの健康管理システムを導入し、リスク管理を行いながら、トレーニングメニューを提案しています。

毎回の体調を実践記録表に記録し蓄積することで、トレーニング効果や体重・血圧の変化を知ることができます。専属の保健師を配置し、生活習慣病予防に役立つアドバイスも行っています。健康教室や体力測定・エアロビクス・ボール運動が人気です。



市内ウォーキング

自主的な健康づくりを支援

市民と協働による「健康で生きがいを持って暮らせるまちづくり」を目標に、市民がウォーキングを日常的に楽しんでいただくための環境づくりの一つとして、市民の監修によるウォーキングマップの作成やスタンプウォーキングなどを継続的に実施しています。



愛知医科大学との相互連携協定

予防医療の強化

平成24年1月、愛知医科大学（愛知県長久手市）と相互連携協定を締結し、講師の相互派遣や市民の健康に関する共同研究を行うなどのほか幅広い分野で協力を深め、市民の健康増進や予防医療の強化をめざしています。

施策4 便利な暮らしの確保

施策4の目的

対象	めざすところ
市民	▶ 快適・便利な暮らしができる

施策4の内容

◆暮らしを支える公共交通の充実	市内の公共施設、医療機関、商業施設等や鉄道駅を循環するコミュニティバスを適正に運行及び管理することにより、通勤・通学者、高齢者等が移動しやすい環境の充実を図ります。
◆市民の利便性の確保	東西庁舎の窓口を、毎月第1・3金曜日（西庁舎）及び毎月第2・4金曜日（東庁舎）に午後7時30分まで窓口を延長し、住民票等を発行することにより、働く世代を始めとした市民の利便性を確保しています。

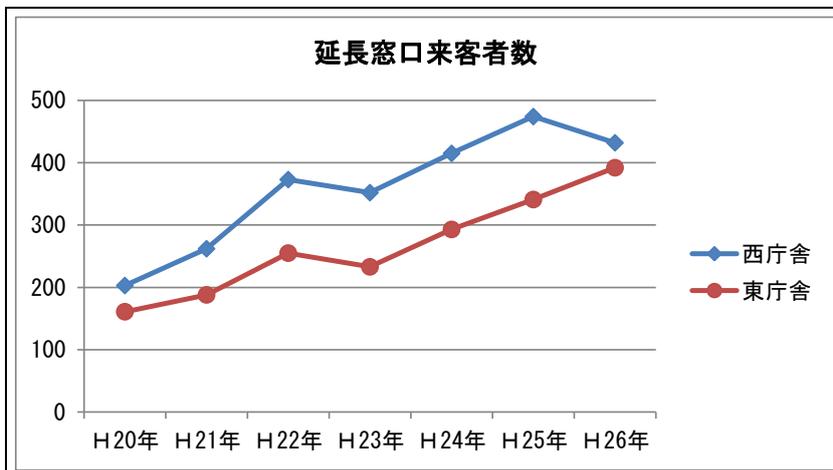
施策4の重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（31年度）
きたバス利用者数	184,635人 (平成26年度)	210,000人



市内循環バス「きたバス」



市役所の受付窓口



延長窓口来客者数		
年度	西庁舎	東庁舎
H20	203人	161人
H21	262人	188人
H22	373人	255人
H23	352人	233人
H24	415人	293人
H25	474人	341人
H26	432人	392人

施策5 地域活動の活性化

施策5の目的

対象	めざすところ
市民	地域での交流ができる

施策5の内容

◆地域協働カフェの実施	市民が気軽に参加し、お茶やお菓子を囲みながら楽しく語り、皆と一緒に学び合える場を提供します。さらに、楽しい雰囲気大切に新たな気づきや学びを得る機会づくりにより、地域の課題やその解決の方法を考えてもらう場にします。
◆地域コミュニティの活性化	市民一人ひとりが、地域に関心を持てるよう、自治会活動や市民活動を通して、まちづくりが楽しいと思う人を増やします。
◆市民活動センターの開設	市民活動団体が運営し、多くの市民や団体が休日でも気軽に楽しく集い、情報交換のできる市民活動の拠点を整備します。
◆ボランティアの養成と活動機会の促進	ひとり暮らしの高齢者の話し相手として、傾聴ボランティア、サロンボランティアを育成するとともに、活動機会を促進します。
◆国際交流の推進	市民を主体とした国際的な交流や協力等を支援するため市国際交流協会に補助し、多文化社会における市民間の相互理解を図るための留学生と子どもたちとの芸術創造活動（絵画制作・造形・ダンス等）を実施するなど、国際感覚あふれる人づくりを推進します。
◆地域と地域の連携推進	リニア中央新幹線開業を見据え、名古屋市を中心とした圏域全体で連携を強化していきます。

施策5の重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値 (31年度)
協働カフェ実施地域数	1件 (平成26年度)	3件
市民活動登録団体数	28団体 (平成26年度)	38団体
名古屋市を中心とした圏域の新規連携事業(累積)	1件 (平成26年度)	3件



「北名古屋家のツツジきょうだい」
名古屋芸術大学デザイン学部と市民協働をPRするために制作したマスコットキャラクターです。
市民の皆さんに市民協働を効果的に伝えるために、市と大学が「協働」することにより制作されました。

第5章 参考資料 北名古屋市の強み

北名古屋市は、名古屋大都市圏の一翼を担う都市として発展し、都市圏全体の産業力・人口の維持に支えられ、近年も依然として人口増加が続いており、平成28年度には、85,000人を超える状況にあります。しかし、その先は、都市圏全体でも人口減少・少子高齢化が急速に進行し、都市圏の中でも都市間競争が激しくなるため、いかに居住地として選択され、北名古屋市で子どもを産みたい、育てたい、ずっと住み続けたいと思ってもらえるようなまちづくりを進めていくことが重要になります。北名古屋市の特性については、第2章で整理していますが、特性に関連する本市の強みとして、以下の3視点を掲げます。

視点1 備わっている環境

1 多くの人が訪れ、幅広い交流が生まれています。

(1) 名古屋芸術大学には、毎日多くの学生が本市に通学しています。

■学生数・平成27年現在（単位：人）

	男	女	計
1年	150	363	513
2年	130	352	482
3年	128	378	506
4年	139	401	540
大学院	26	38	64
計	573	1,532	2,105

■研究科名、学部・学科名

大学院	音楽学部研究科	
	美術研究科	
	デザイン研究科	
	人間発達学研究科	
学部	音楽学部	演奏学科 音楽文化創造学科
	美術学部	美術学科
	デザイン学部	デザイン学科
	人間発達学部	子ども発達学科

(2) 食のアウトレットモール北名古屋には、多くの方が来場しています。

■平成27年9月までの来場者数

	来場者数	備考
H25	91,328 人	7月オープン
H26	164,052 人	
H27	125,407 人	9月末現在

※延べ来場者数 380,787 人



連携に関するパートナーシップ協定

平成26年8月、北名古屋市と「食のアウトレットモール北名古屋」を運営する合同会社 Foods Innovation（市内の食にまつわる製造メーカーで構成）は、連携に関するパートナーシップ協定を締結しました。

この協定をとおして、まちづくり全体を視野に入れた多様な事業メニューの立案や、相互に持ちうる資源を活用して、事業内容の発展と地域の活性化を期待しています。

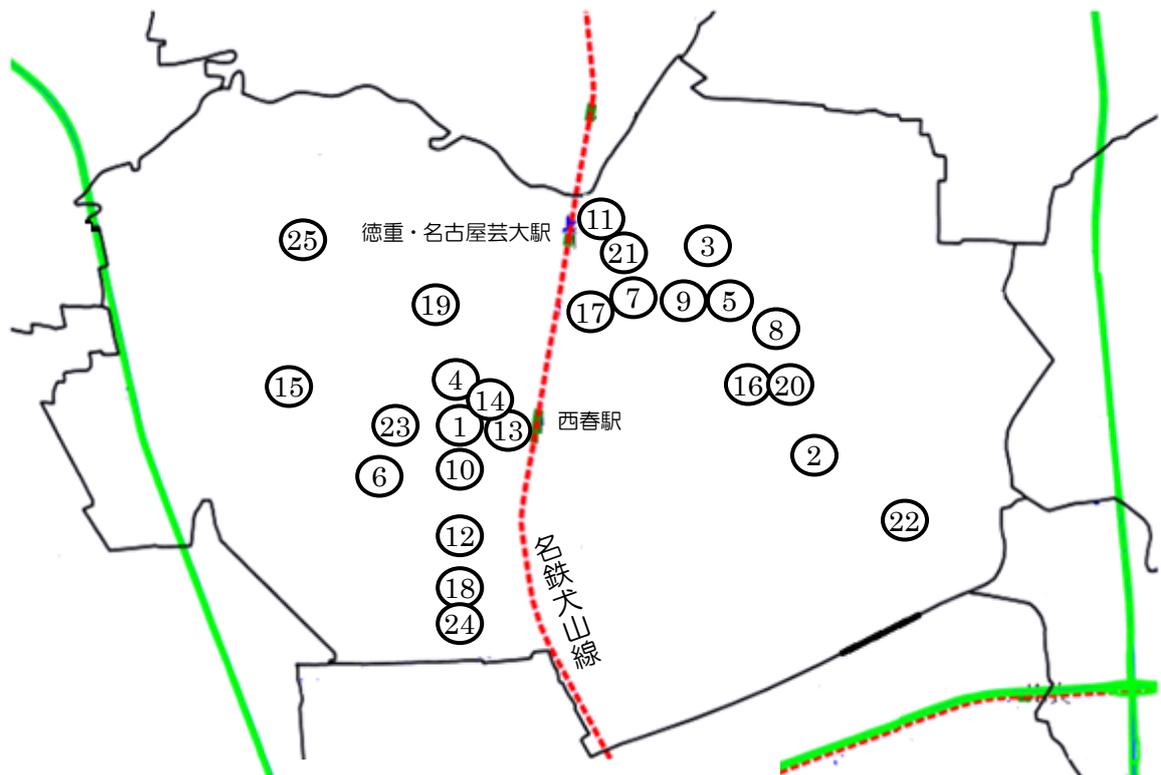
2 日常生活に欠かすことのできない民間サービスの1つとして、金融機関がありますが、市域の中に多くの店舗があります。

■市内にある金融機関

金融機関名		支店名
1	三菱東京UFJ銀行	西春支店
2	大垣共立銀行	師勝支店
3	十六銀行	師勝支店
4	百五銀行	西春支店
5	愛知銀行	師勝支店
6	愛知銀行	西春支店
7	名古屋銀行	師勝支店
8	中京銀行	師勝支店
9	いちい信用金庫	師勝支店
10	いちい信用金庫	西春支店
11	いちい信用金庫	師勝西支店
12	瀬戸信用金庫	西春支店
13	中日信用金庫	西春支店
14	西春日井農協	本店
15	西春日井農協	西春支店
16	西春日井農協	師勝支店
17	西春日井農協	鹿田支店
18	西春日井農協	九之坪支店

郵便局名	
19	西春郵便局
20	師勝郵便局
21	師勝坂巻郵便局
22	師勝高田寺郵便局
23	西春西之保郵便局
24	西春九之坪郵便局
25	西春鍛冶ヶ一色簡易郵便局

種別	件数
銀行	8
信用金庫	5
農協	5
郵便局	7
合計	25



市内の金融機関の位置図

視点2 児童生徒に対する英語教育の取組

実践的な英語コミュニケーションの能力向上を図り、グローバル化した社会に対応できる人材を育成するため、教育施策の重点事業として「児童生徒英語力推進事業」を実施しています。これは、土曜日の英語教室や夏期英語体験研修を開催し、児童生徒への英語教育の拡充を図るものです。なお、この事業は、地方創生先行型交付金の一部を活用しています。

土曜英語教室

1 内容

オールイングリッシュ（指導者の指示はすべて英語）の環境の中で、ゲームや歌などを使いながら、英語のアルファベットの文字に親しみ、英語のシャワーを浴びながら楽しく過ごすことで、体験的に英語に慣れるものです。

- A** アルファベットの文字や身近な英単語に触れます。
- B** カタカナ英語ではなく英語のアクセントや発音に親しみます。
- C** 英会話の基本フレーズ 50 文に触れます。
- D** 英語の歌を 10 曲歌います。
- E** 日本語を介さず理解できるような環境を作ります。



2 指導者・指導形態

英語の話せる日本人講師による初心者向けの40分授業

3 実施場所

各小学校区の児童館で実施

夏期英語体験研修

小学生



小学生が夏休みに、英語で遊びながらキャンプファイヤーや飯ごう炊きなどの野外体験ができるイングリッシュキャンプを実施

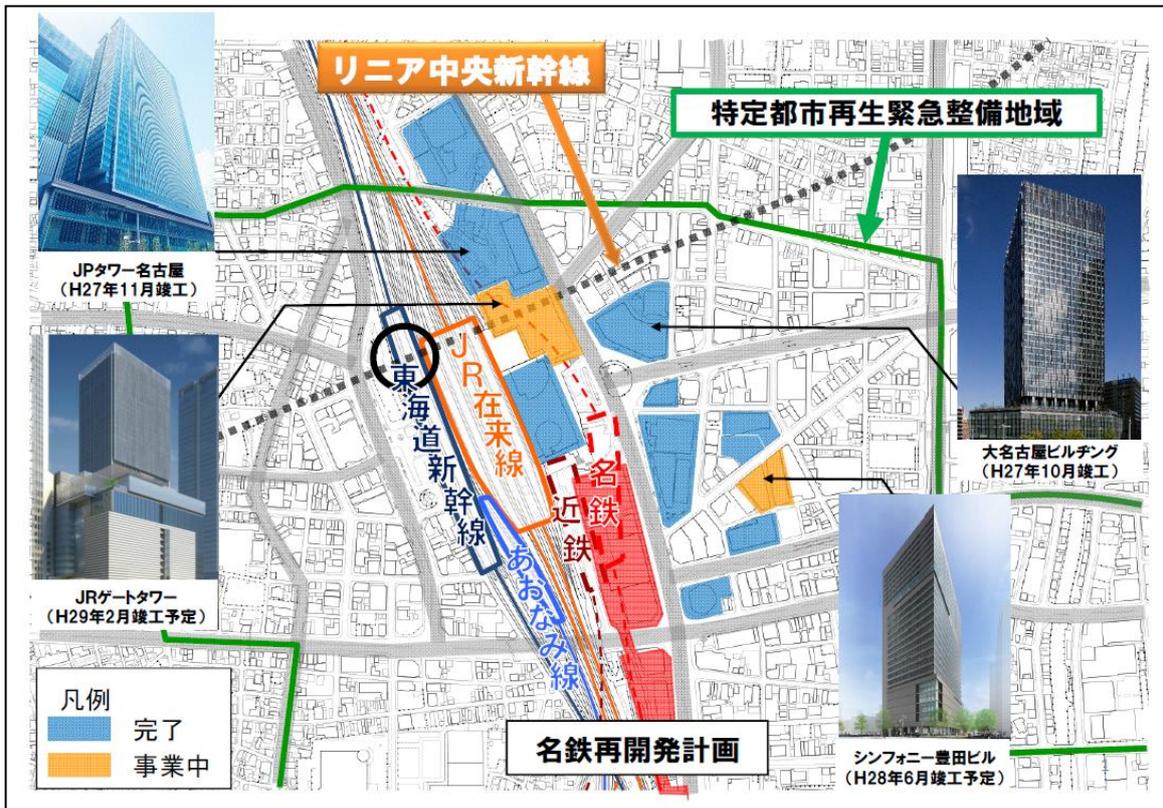
中学生



中学生が日本で唯一の体験型英語研修施設で、イギリスの伝統的な生活をリアル体験できるプリティッシュヒルズ英語研修ツアーを実施

視点3 市の発展が見込める社会情勢

中央新幹線（品川—名古屋間）が2027（平成39）年に開業されるのを契機として、名古屋駅周辺において、超高層ビルの建築等により、ビジネスの拠点性を高める都市機能が強化されるとともに、新たな雇用が創出されようとしています。名古屋駅へのアクセスに優れている北名古屋市にとって、この機会にあわせて本市の特性や強みを活かすことにより、「まち」の更なる発展が期待でき、緑豊かで過ごしやすい居住環境などを魅力として認知されることで、働く世代の転入増加が期待されます。また、MRJの研究開発及び量産拠点到隣接した県営名古屋空港に近接している北名古屋市では、航空機産業の振興による新たな雇用の創出が期待されています。



[名古屋市住宅都市局提供]

名古屋駅周辺まちづくり構想

名古屋市では、リニア中央新幹線開業を見据えて、目標とするまちの姿を「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ ～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～」とし、その実現のため、「国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す」、「誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる」、「都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく」などを基本方針として、具体的な取り組みを明らかにした構想を策定しました。



[東海旅客鉄道株式会社提供]

中央新幹線

時速 500km で走行し、品川-名古屋間が約 40 分間で結ばれます。2045（平成 57）年には大阪への延伸が計画されており、三大都市圏を一体化するスーパー・メガリージョンの形成が期待されています。



[三菱航空機株式会社提供]

MRJ（三菱リージョナルジェット）

最先端技術を取り入れた 70～90 席クラスの次世代の小型ジェット旅客機で、最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えています。

2015（平成 27）年に試験機の初飛行を終え、初号機納入に向けた開発が進められています。

北名古屋市まち・ひと・しごと創生
総合戦略

【平成27年度～平成31年度】

発行：北名古屋市
編集：総務部 経営企画課

〒481-8531
愛知県北名古屋市西之保清水田15番地
電話 (0568) 22-1111
FAX (0568) 25-1800
E-mail keiei@city.kitanagoya.lg.jp